

佐久市健康長寿 まちづくり計画



平成29年3月
長野県 佐久市

はじめに



モータリゼーションの進展や郊外型大型店の立地などの社会的要因をはじめ、消費者ニーズの多様化、インターネット販売や産地直送などにより、消費者の選択範囲が拡大し、既存商店街の商業環境は厳しい状況が続いております。

また、佐久市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成22年（2010年）をピークに減少に転じ、平成52年（2040年）には85,000人程度まで減少すると推計されており、人口減少と地域経済の縮小が懸念されております。

佐久市は、平成9年の北陸新幹線の開業に合わせ、約60ヘクタールの佐久駅周辺土地区画整理事業を実施し、新たな市街地が形成されました。この地区は、人口が増加傾向にあるとともに、買い物客など佐久市への人の流れを創出しておりますが、最近では吸引力の低下も見られることから、更なる経済活力の向上が課題となっております。

こうした諸情勢の変化に対応するため、国の地方創生推進交付金を活用し、佐久市の強みであります「健康長寿」の視点を取り入れ、平成29年度から平成33年度までを計画期間とする『健康長寿まちづくり計画』を策定いたしました。

この計画は、佐久地域の集客の核となっております佐久平駅周辺及び近接する岩村田地区を「健康長寿を生かしたまちづくりのエリア」として位置づけ、このエリアのまちづくりの方向性を示し、それを具現化する中でその効果を佐久市全体に波及させることを目的としております。

今後は、本計画におきまして「安全・快適・健康で住む人も来る人も過ごしやすいまち」を将来像に掲げ、佐久市が将来にわたり選ばれる『まち』として活力を維持していけるよう魅力と賑わいを創出する各種施策を展開してまいりますので、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、ご協議を重ねていただきました佐久市健康長寿まちづくり協議会の委員の皆様をはじめ、市民意識調査や意見公募等で貴重なご意見・ご提案をいただきました市民の皆様、関係機関など、ご協力をいただいた多くの皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成29年3月

佐久市長 柳田 清二

目次

1	健康長寿まちづくり計画の概要.....	1
	〔1〕 計画策定の背景.....	1
	〔2〕 健康長寿まちづくり計画の位置付け.....	2
	〔3〕 健康長寿を生かしたまちづくりのエリア.....	3
2	佐久市の概況及び中心市街地の現状・課題等.....	4
	〔1〕 佐久市の概況.....	4
	〔2〕 佐久市及び中心市街地の現状.....	5
	〔3〕 地域住民等のニーズ.....	19
	〔4〕 佐久市及び中心市街地の課題.....	33
	〔5〕 上位計画及び関連計画におけるまちづくりの基本方向.....	35
3	健康長寿まちづくりの基本方針と主要施策.....	42
	〔1〕 将来像とまちづくりの基本戦略・基本方針.....	42
	〔2〕 基本方針1に資する主要施策.....	45
	〔3〕 基本方針2に資する主要施策.....	48
	〔4〕 基本方針3に資する主要施策.....	54
	〔5〕 今後の取組に関して.....	57
	〔6〕 進行管理における管理指標.....	57
4	資料編.....	58
	〔1〕 佐久市健康長寿まちづくり協議会設置要領.....	58
	〔2〕 佐久市健康長寿まちづくり協議会委員等名簿.....	60
	〔3〕 佐久市健康長寿まちづくり協議会開催概要.....	61
	〔4〕 各種調査概要.....	63
	〔5〕 佐久市健康長寿まちづくり計画策定に向けた市民意識調査票.....	64
	〔6〕 佐久市健康長寿まちづくり計画策定に向けた移住意識調査票.....	72

1 健康長寿まちづくり計画の概要

〔1〕計画策定の背景

全国的に少子高齢化が進行し、それに伴い消費生活の状況も大きく変化しています。従来の中心市街地は、商業・業務・居住等の都市機能が集積し、長い歴史の中で文化・伝統を育み、各種機能を培ってきた『まちの顔』となる地域でした。

しかしながら、多くの市町村において、都市機能の拡散やモータリゼーションの進展、流通構造の変化等による大型店の郊外立地、居住人口の減少等に伴うコミュニティ機能の低下等により、中心市街地の活力が低下しています。

国では、これまでの都市の拡大成長を前提としたまちづくりから、様々な都市機能が集約したまちづくりを進めることが必要であると捉え、都市機能の無秩序な拡散防止と中心市街地への都市機能の集積に向け、平成 18 年 8 月に中心市街地活性化法を改正しました。

この法改正により、中心市街地において快適で魅力ある生活環境の形成、都市機能の集積、創造的な事業活動の促進を基本とした、地域の関係者による主体的な取組に対し、国が集中的かつ効果的に支援を行う、中心市街地活性化基本計画の認定制度が整備されました。

これに加え、平成 26 年 8 月に都市再生特別措置法の一部改正、同年 11 月に地域交通活性化再生法の一部改正がそれぞれ施行され、生活拠点などに、福祉・医療等の施設や住宅を誘導し、集約する立地適正化計画制度や、地方公共団体が中心となり、まちづくりと連携して将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークを再構築するための地域公共交通網計画等、新たな仕組みが設けられました。

佐久市でも、国の制度改正に合わせ、立地適正化計画、地域公共交通網形成計画の策定に取り組んでおり、既に形成されている市内の中心拠点や生活拠点における機能の役割を明確にし、各拠点で地域の特徴を生かした機能集約型のまちづくりを進めるとともに、公共交通ネットワークの再構築を図ろうとしています。

健康長寿まちづくり計画は、将来的な人口減少と地域経済の縮小に対応するため、佐久平駅周辺及び近接する岩村田周辺を、本市の特徴でもある健康長寿を生かしたまちづくりのエリアとして位置づけ、このエリアのまちづくりの方向性を示し、それを具現化する中でその効果を全市へ波及させていくことを目的として策定します。

[2] 健康長寿まちづくり計画の位置付け

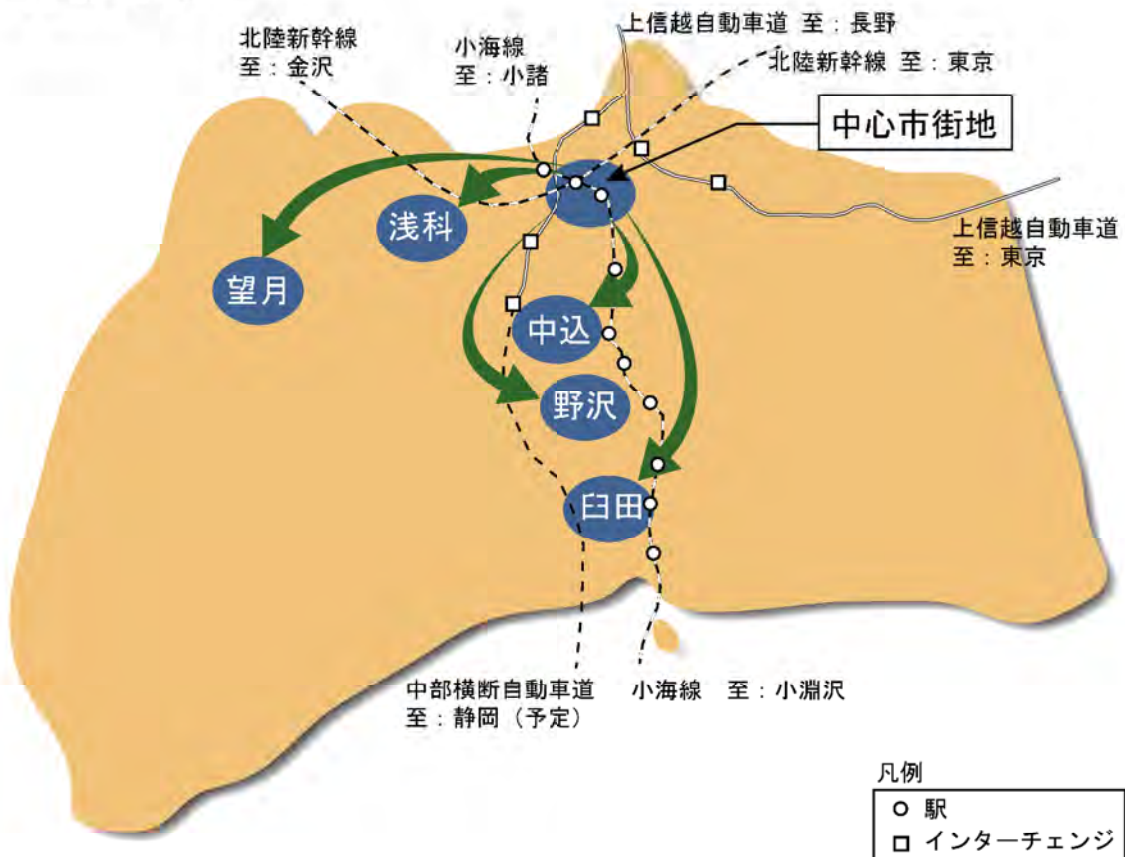
佐久市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した方法によると、平成 22 年をピークに減少に転じ、平成 52 年には 85,000 人程度に減少することが推計されており、人口減少と地域経済の縮小が懸念されています。

また、佐久市の都市構造は、岩村田、東、中込、野沢、臼田、浅科、望月の中心拠点・生活中心拠点が形成され、それぞれの拠点を中心に周辺集落や山間の集落が形成される多核構造となっており、それぞれの地域ごとに異なる特徴を有しています。

本計画は、第二次佐久市総合計画を上位計画として、佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略・佐久市都市計画マスタープラン・佐久市立地適正化計画・佐久市地域公共交通網形成計画などのまちづくりと関係する計画との整合を図り、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間を計画期間とし、健康長寿を生かしたまちづくりのエリアの将来像とその実現に向けた基本方針、基本方針を具現化する施策の基本的方向をまとめるものです。

なお、計画の実効性をより高めるため、本計画を基に次年度以降、中心市街地活性化法に基づく中心市街地活性化基本計画の策定を目指します。

■計画のイメージ



〔3〕健康長寿を生かしたまちづくりのエリア

佐久市の市街地は江戸時代に整備された中山道、佐久甲州街道の宿場町を中心に形成され、岩村田宿は中山道と佐久甲州街道の宿場町として商業が栄えました。

その後、明治期には長野県の佐久支庁が置かれ佐久郡の中心的なまちとして発展しました。

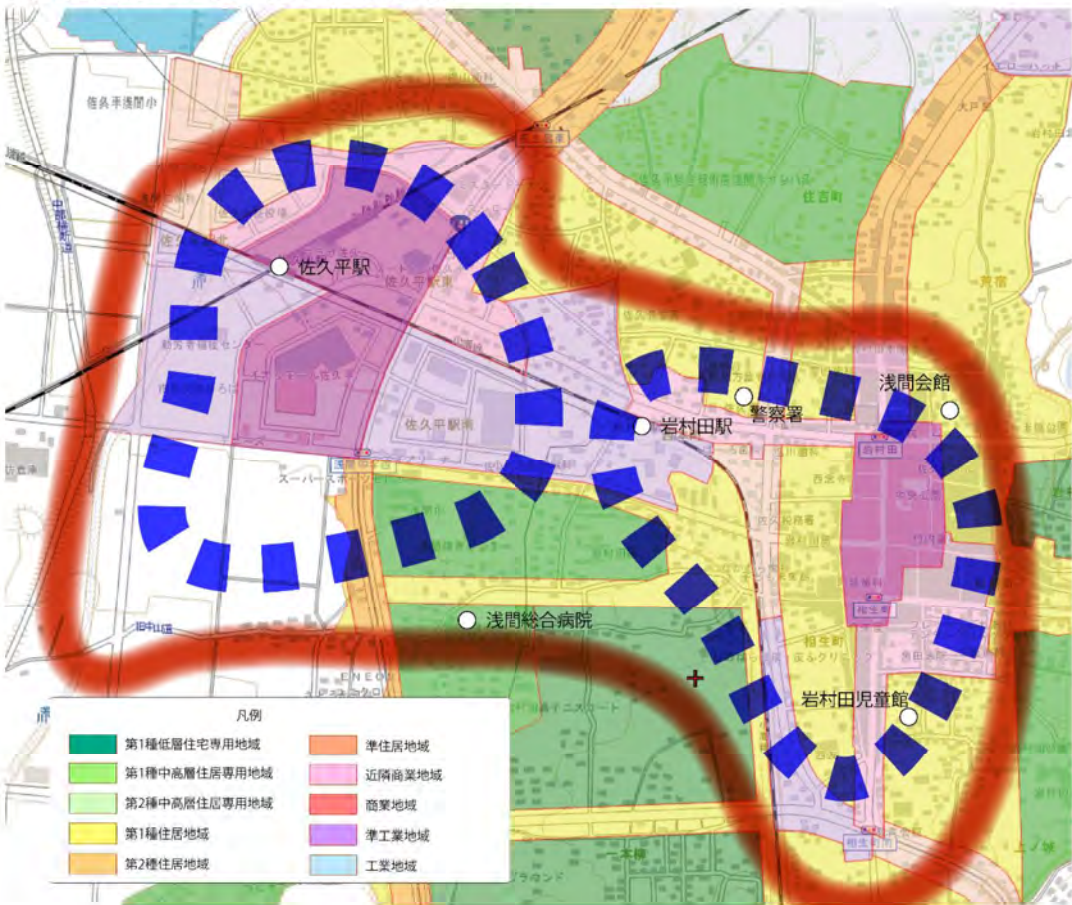
さらに平成９年に長野新幹線（現 北陸新幹線）が開通し、新たに佐久平駅が開業し、佐久平駅周辺は本市の玄関口として整備が進められ、新たな市街地が形成されました。

本計画では、江戸期からの歴史を有し商業をけん引してきた岩村田地区及び岩村田地区に近接し本市の玄関口である佐久平駅周辺を、健康長寿を生かしたまちづくりのエリア（以下「中心市街地」といいます。）として位置付けます。

佐久市が将来にわたり選ばれる「まち」として活力を維持していくためには、まずは、この区域のまちづくりについて考え、その効果を佐久市全体に広げていくことが重要になります。

また、まちづくりには、佐久市の強みである「健康長寿」の要素を取り入れ、ハード・ソフトの様々な施策を展開します。

■健康長寿を生かしたまちづくりのエリア



2 佐久市の概況及び中心市街地の現状・課題等

〔1〕佐久市の概況

（1）位置・地勢

本市は、長野県の東部（東信地域）で、県下 4 つの平のひとつである佐久平に位置し、市域は、東西 32.1km、南北 23.1km で、面積は 423.51 km² となっています

北に浅間山（上信越高原国立公園）、南に八ヶ岳連峰をのぞみ、蓼科山・双子山（八ヶ岳中信高原国立公園）に囲まれ、千曲川が市の中央部を南北に貫流する自然環境に恵まれた高原都市です。

上信越自動車道の開通や北陸新幹線佐久平駅の開業、さらには中部横断自動車道の整備が進み、首都圏をはじめ日本海圏、太平洋圏を結ぶ交通の要衝にあります。

気温の寒暖差が大きく降水量が少ないなど、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地です。特に、年間を通して晴天率が高く、国内でも有数の日照時間が多い地域です。

■佐久市及び中心市街地の位置



（2）佐久市の沿革

佐久市内には古くから人類が生活した痕跡があり、旧石器時代の石器が前山の遺跡から出土しています。江戸期には中山道の宿場町のうち4宿が佐久市内に位置しており、特に中山道と佐久甲州街道の結節地の岩村田宿は、交通の要衝として発展しました。

明治時代に入り、廃藩置県によって長野県の管轄となり、その後、市町村合併を繰り返しながら、平成 17 年に旧佐久市、南佐久郡臼田町、北佐久郡浅科村、北佐久郡望月町の 1 市 2 町 1 村が合併し、現在の佐久市となりました。

近年の佐久市は、上信越自動車道や北陸新幹線、さらには中部横断自動車道といった高速交通網の整備が飛躍的に進み、とりわけ北陸新幹線佐久平駅周辺は大きな変貌を遂げ、長野県内有数の商業圏を形成しています。

また、昭和 19 年に開設された佐久総合病院と昭和 34 年に開設された浅間総合病院を中心に地域と一体となった保健予防活動が展開されたことにより、日本有数の長寿のまちとして、国内外から注目されています。

今後、佐久市では中部横断自動車道が順次整備され、新たに佐久臼田 I C が開通する予定になっており、これによって山梨・静岡方面からのアクセスの向上が見込まれています。健康長寿のまちとして、また交通の要衝として、まちづくりが進められています。

[2] 佐久市及び中心市街地の現状

(1) 沿革及び歴史・文化的な役割

本計画における中心市街地は、江戸時代に岩村田に岩村田藩の陣屋が置かれ、この時代に五街道のひとつとして整備された中山道と佐久甲州街道の宿場町、岩村田宿としてまちが形成され商業が発展しました。さらに明治期には長野県の佐久支庁が岩村田に置かれ佐久郡の中心的なまちとして発展しました。

現在では宿場町の歴史を受け継ぎながら、地域密着型の商店街が形成され、全国の先進事例にもなる商店街活動が活発なまちとなっています。

一方、平成 10 年 2 月の長野オリンピックの開催に合わせて、平成 9 年 10 月に長野新幹線（現 北陸新幹線）の高崎駅～長野駅間が開通し、佐久平駅が開業しました。佐久平駅周辺は本市の玄関口として土地区画整理事業による整備が行われ、商業集積等が進み、新たな市街地が形成されました。

このように中心市街地は、江戸期からの歴史を有する岩村田地区と高速交通網の整備に伴い開発された佐久平駅周辺地区により形成されています。

■岩村田商店街



(2) 人口・世帯に関する動向

①佐久市及び中心市街地の人口推移

佐久市全体の人口は減少傾向にある一方、中心市街地の人口は増加傾向にあります。旧来からの中心地である岩村田地区は約2%の増加率に対して、佐久平駅周辺の長土呂地区は約19%の増加率となっており、近年、人口が大きく増加してきています。

佐久市全体に占める中心市街地の人口割合は、平成27年で4.0%と平成21年と比較して0.3ポイント上がり、中心市街地の居住者割合が増加しています。

■佐久市及び中心市街地の人口の推移



(資料：住民基本台帳)

■佐久市及び中心市街地の人口の推移

	平成 21 年	平成 27 年	増減
a.佐久市	100,944 人	99,650 人	▲1.3%
b.中心市街地(c+d)	3,756 人	3,952 人	5.2%
c.岩村田地区	2,982 人	3,034 人	1.7%
d.長土呂地区	774 人	918 人	18.6%
e.人口割合(b/a)	3.7%	4.0%	0.3ポイント

(資料：住民基本台帳)

注) P.3 で示したまちづくりのエリア(中心市街地)と住民基本台帳の集計区域が異なることから、中心市街地を含む集計区域(岩村田地区・長土呂地区)の数値について、それぞれ中心市街地に含まれる面積をもとに案分した数値とする。

②佐久市及び中心市街地の年齢3区分別人口等の推移

佐久市全体及び中心市街地ともに高齢化が進行しています。佐久市全体の高齢化率は平成 27 年では約 28%となっていますが、中心市街地は約 24%と4ポイントほど低い状況にあります。生産年齢人口と年少人口の割合は、佐久市全体は減少傾向にある一方、中心市街地は微増微減を繰り返していますが、徐々に減少しています。

また、平成 28 年 4 月 1 日現在の年齢別人口ピラミッドを見ると、佐久市全体及び中心市街地ともに 10 歳代後半から 20 歳代前半の割合が低く、進学や就職により市外に出ていることが推測されます。一方、中心市街地においては、40 歳代前半の子育て世代の割合が高くなっています。

■佐久市及び中心市街地の高齢化率の推移

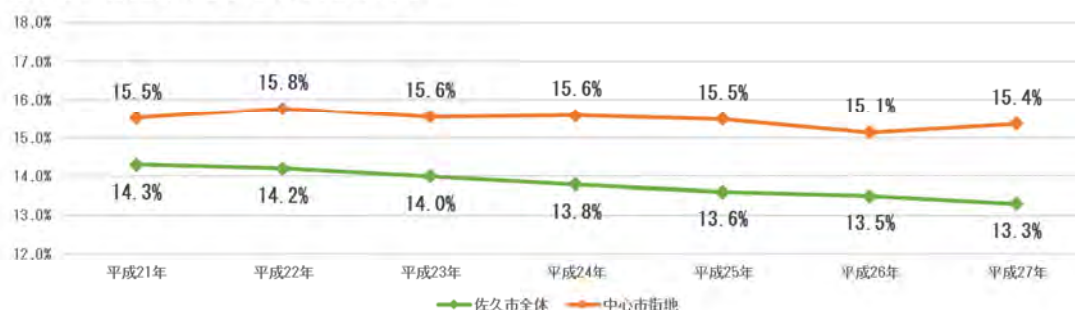


■佐久市及び中心市街地の生産年齢人口の割合の推移



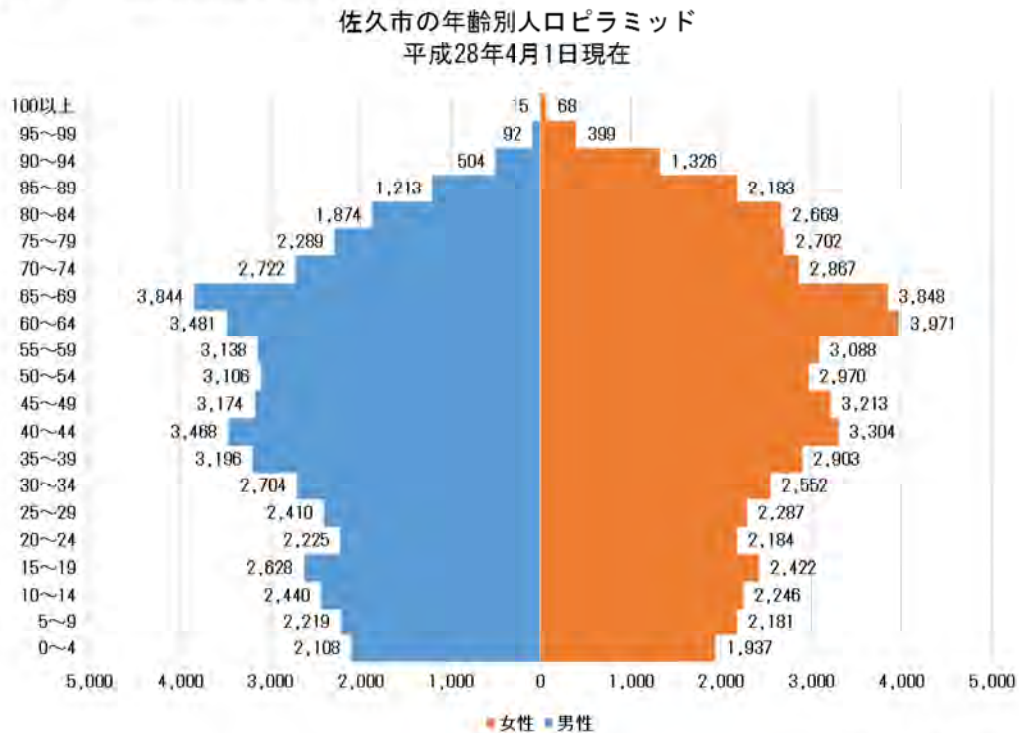
(資料：住民基本台帳)

■中心市街地の年少人口の割合の推移



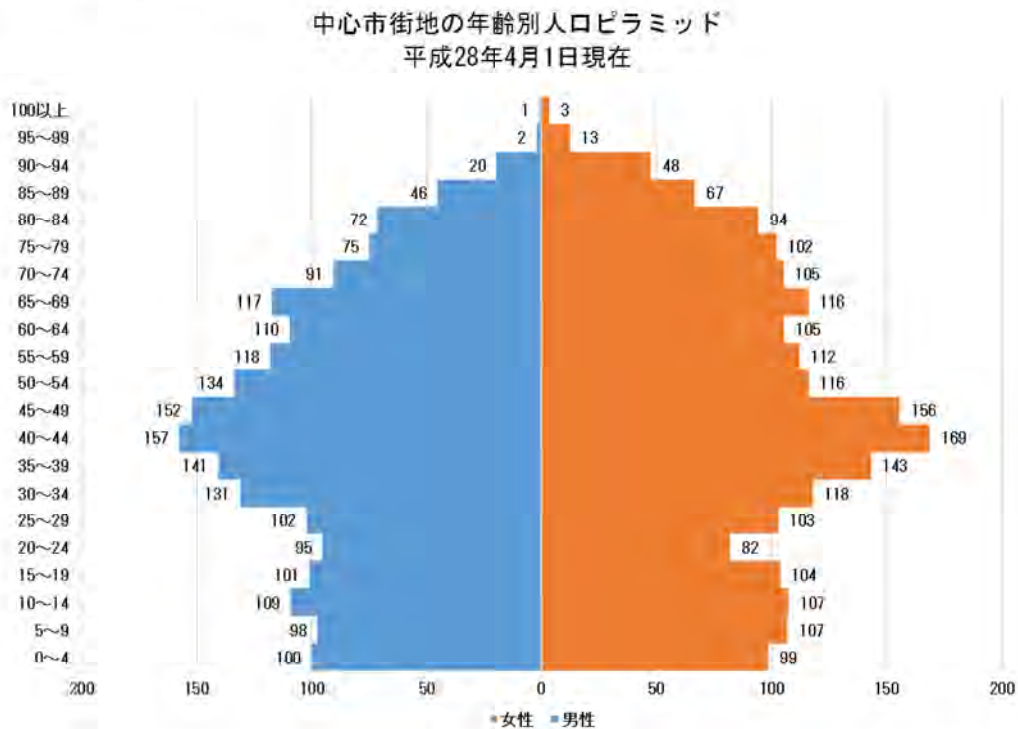
(資料：住民基本台帳)

■佐久市の年齢別人口ピラミッド



(資料：住民基本台帳)

■中心市街地の年齢別人口ピラミッド



(資料：住民基本台帳)

③佐久市及び中心市街地の世帯数及び世帯人員の推移

佐久市全体及び中心市街地の世帯数は共に増加傾向にあります。また世帯人員は、中心市街地のうち、岩村田地区は2.36人/世帯（平成27年）、長土呂地区は2.33人/世帯（平成27年）と佐久市全体よりも低く、中心市街地は核家族化・単身世帯化が進行していることがうかがえます。

■佐久市及び中心市街地の世帯数の推移



（資料：住民基本台帳）

■佐久市及び中心市街地の世帯人員の推移



（資料：住民基本台帳）

■佐久市及び中心市街地の世帯数の推移

	平成 21 年	平成 27 年	増減
a.佐久市	38,490 世帯	40,323 世帯	4.8%
b.中心市街地	3,756 世帯	3,952 世帯	5.2%
c.割合(b/a)	9.8%	9.8%	0 ポイント

（資料：住民基本台帳）

■佐久市及び中心市街地の世帯人員の推移

	平成 21 年	平成 27 年	増減
a.佐久市	2.62 人/世帯	2.47 人/世帯	▲5.7%
b.中心市街地(c+d)	2.41 人/世帯	2.35 人/世帯	▲2.5%
c.岩村田地区	2.42 人/世帯	2.36 人/世帯	▲2.5%
d.長土呂地区	2.37 人/世帯	2.33 人/世帯	▲1.7%

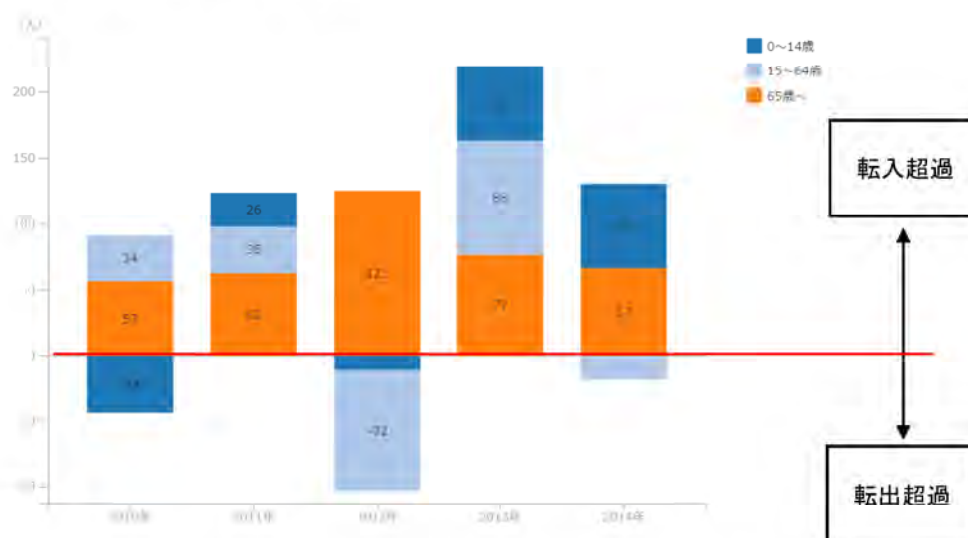
（資料：住民基本台帳）

④佐久市の年齢階級別純移動数

佐久市全体の年齢別純移動数（年齢別社会増減数）の推移を見ると、15 歳未満の年少人口にあたる層が平成 22 年と平成 24 年に転出超過、15 歳から 64 歳の生産年齢人口にあたる層が平成 24 年と平成 26 年に転出超過しています。

平成 22 年から平成 26 年までの 5 年間では、65 歳以上の高齢人口が転入超過の傾向にあります。

■佐久市の年齢階級別純移動数の推移

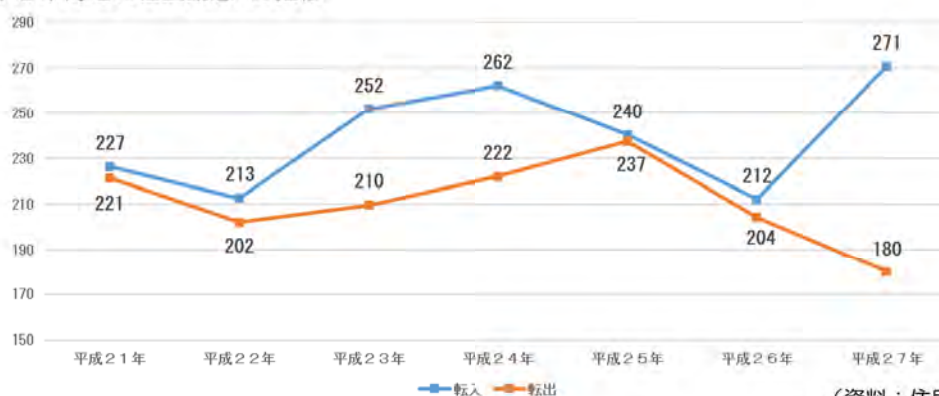


（資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」地域経済分析システム RESAS※）

⑤中心市街地の社会動態の推移

中心市街地の社会動態を見ると、平成 21 年以降社会増が続き、平成 27 年では転入数が転出数を大きく上回り、91 人の社会増となっています。

■中心市街地の社会動態※の推移



（資料：住民基本台帳）

注 1）地域経済分析システム（RESAS：リーサス）とは、地方自治体の様々な取組を情報面から支援するために、まち・ひと・しごと創生本部事務局が提供する、産業構造や人口動態、人の流れなどの多種多様な情報を集約し、可視化するシステムのこと。

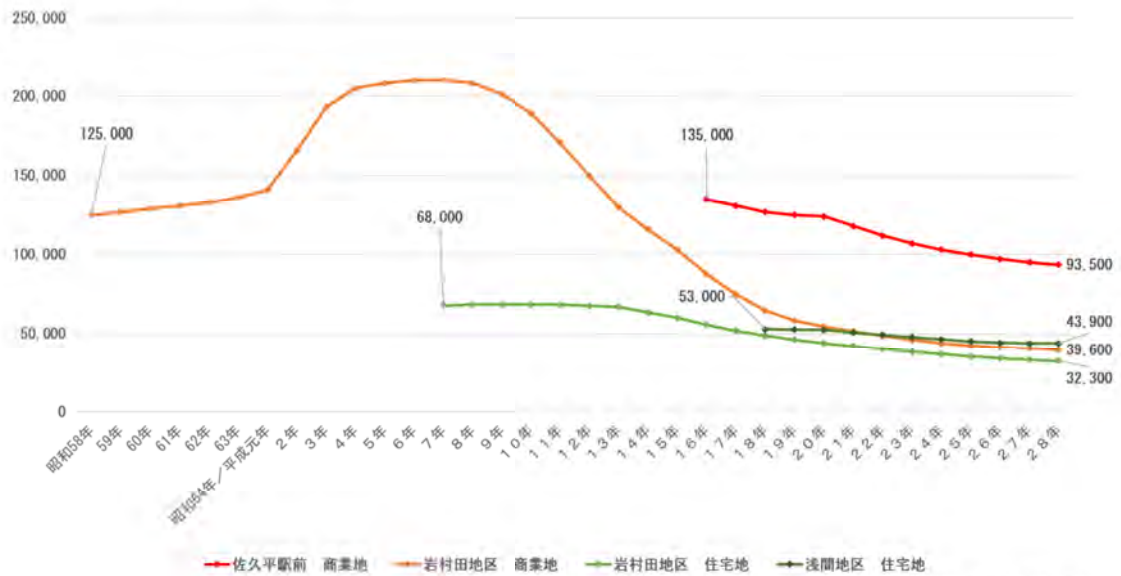
注 2）社会動態とは、一定期間における転入・転出に伴う人口の動きのこと。

(3) 土地利用、公共公益施設等に関する状況

① 中心市街地の地価の状況

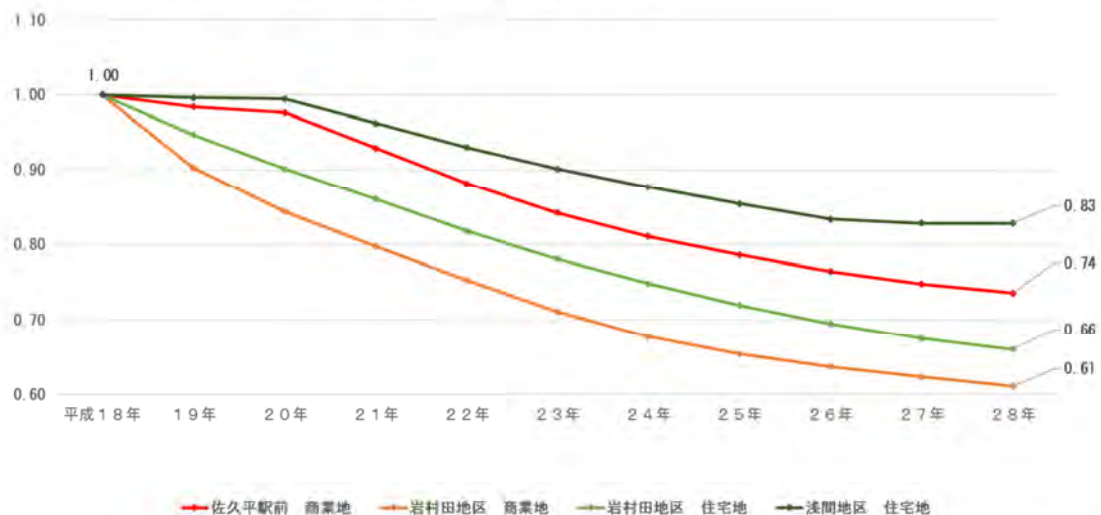
中心市街地の公示地価は商業地、住宅地ともに下落傾向にあります。また、佐久平駅周辺では地価が高い状況にありますが、岩村田地区の商業地と岩村田地区の住宅地との価格差は縮まっています。

■ 中心市街地の地価の推移



(資料：国土交通省地価公示)

■ 中心市街地の地価の推移（平成18年を1.00とする）



(資料：国土交通省地価公示)

②中心市街地の公共施設等の状況

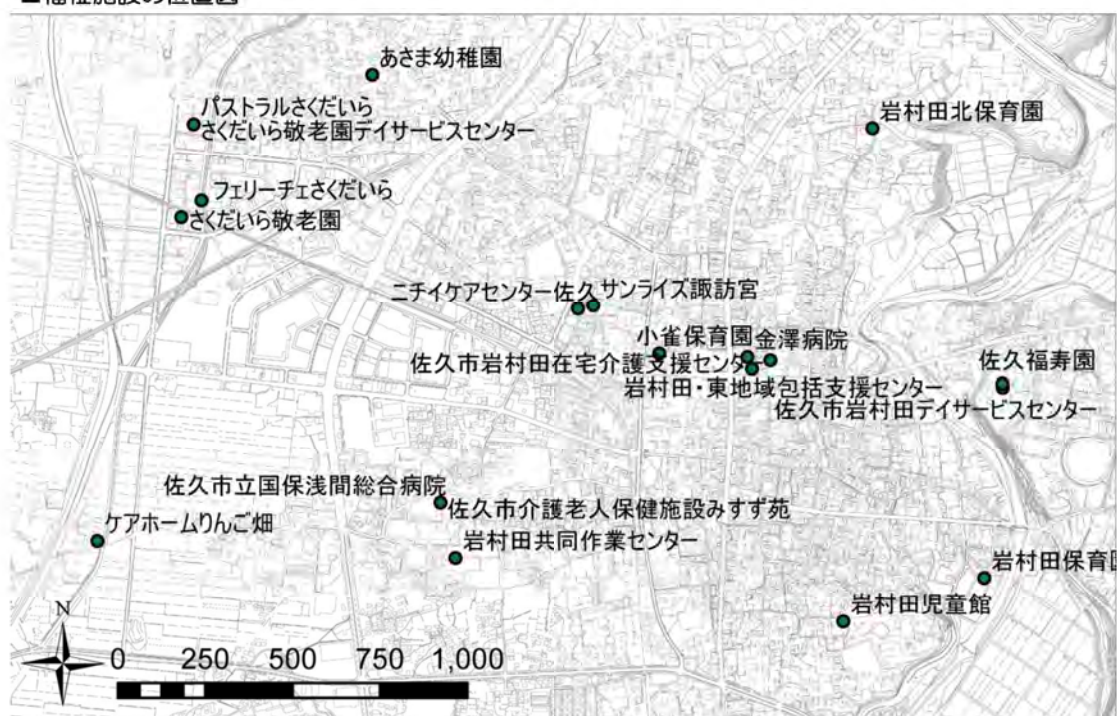
中心市街地における主な公共公益施設は下図に示すとおりで、医療施設、福祉施設が集積しています。また、行政施設、文化施設は岩村田地区に集積しています。

■医療施設の位置図（総合病院及び内科・外科・小児科）

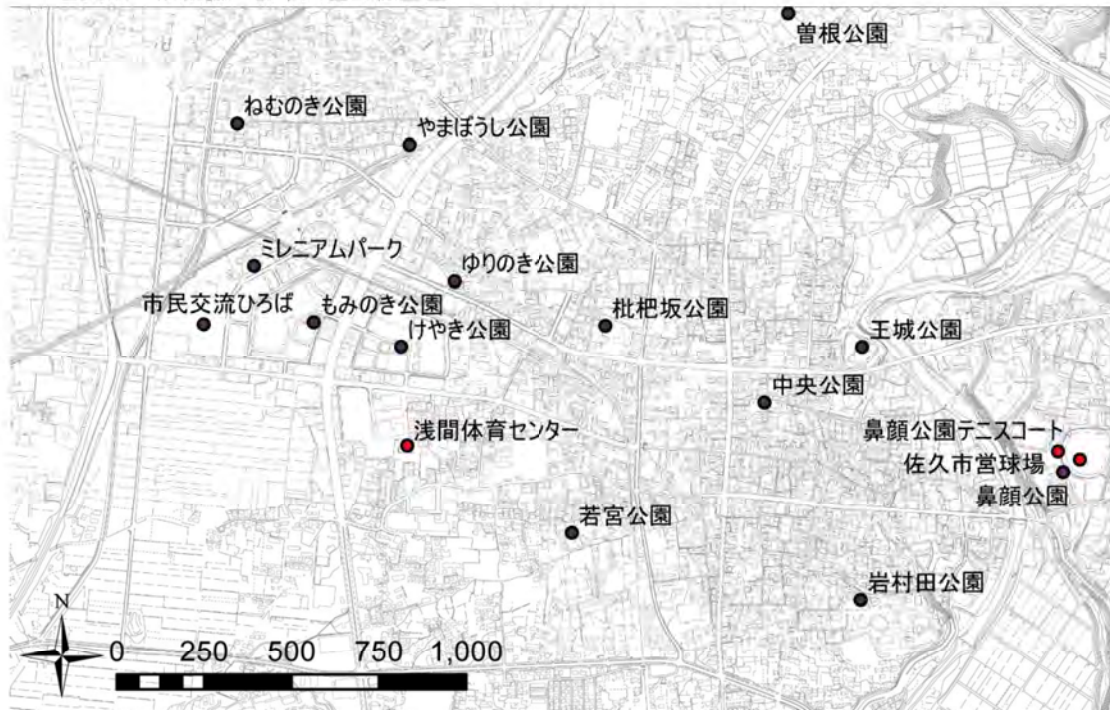


注) 以下の位置図では、参考としてP.3で示したまちづくりのエリアの周辺の施設も示す。

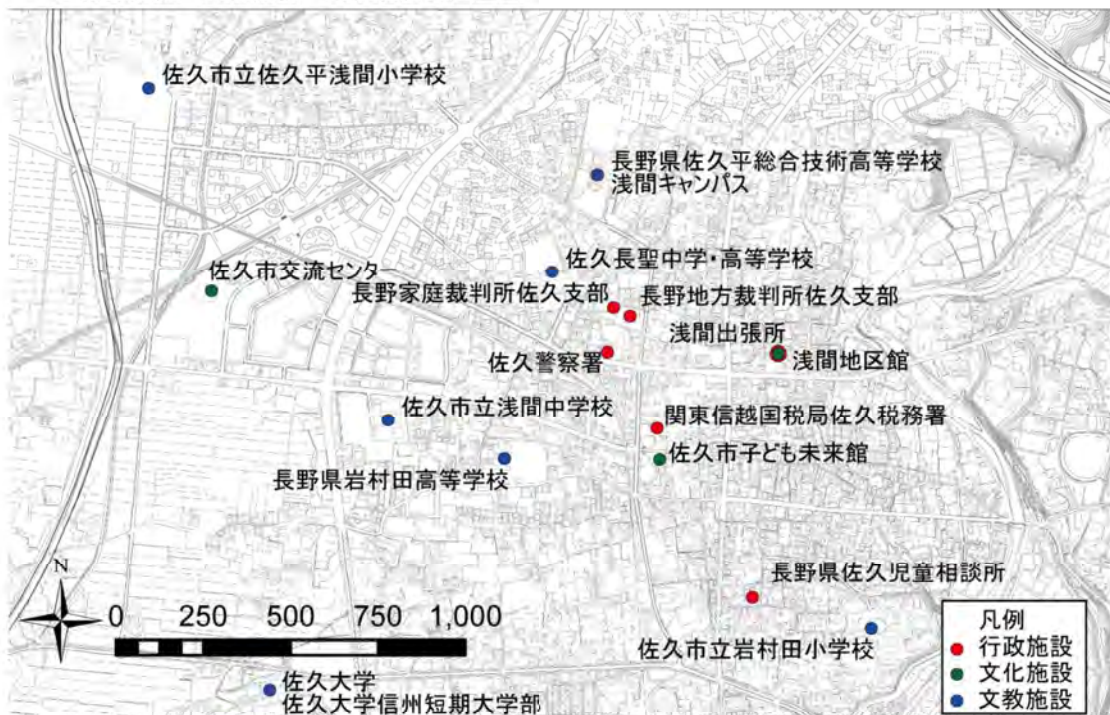
■福祉施設の位置図



■スポーツ施設・都市公園の位置図



■行政施設・文化施設・文教施設の位置図



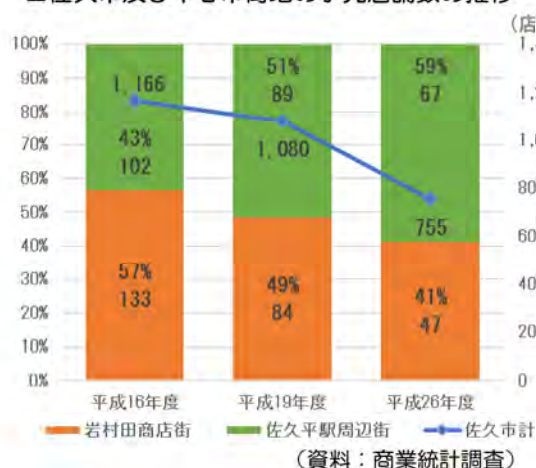
(4) 商業・観光等に関する状況

① 中心市街地の小売業の状況

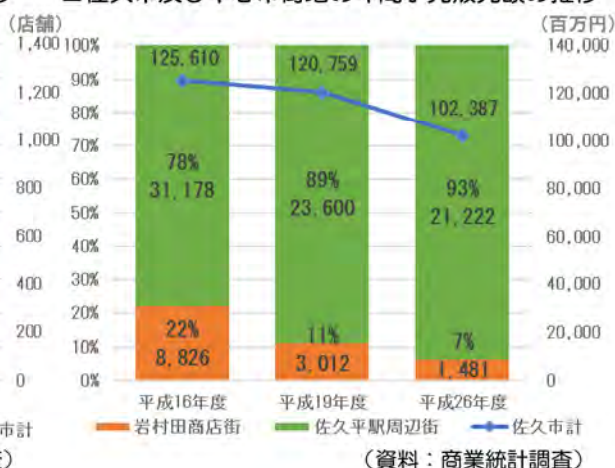
小売店舗数の推移を見ると、佐久市全体及び中心市街地ともに減少しています。中心市街地内の主要な商業集積地である岩村田商店街と佐久平駅周辺の小売店舗数の推移を見ると、中心市街地における岩村田商店街の小売店舗数の占める割合は、平成 16 年度には 57%（133 店舗）ありましたが、平成 26 年度では 41%（47 店舗）と減少し、佐久平駅周辺が 59%（67 店舗）と上回る状況にあります。

次に、年間小売販売額の推移を見ると、小売店舗数と同様に佐久市全体及び中心市街地ともに減少しています。中心市街地内の主要な商業集積地である岩村田商店街と佐久平駅周辺の年間小売販売額の推移を見ると、中心市街地における佐久平駅周辺の年間小売販売額の占める割合は、平成 16 年度には 78%（31,178 百万円）、平成 26 年度では 93%（21,222 百万円）と伸びています。

■佐久市及び中心市街地の小売店舗数の推移



■佐久市及び中心市街地の年間小売販売額の推移



② 中心市街地の大規模小売店舗の状況

中心市街地の大規模小売店舗（店舗面積 1,000 m²超）は、佐久平駅周辺の国道 141 号沿いに集積しています。

■中心市街地の大規模小売店舗位置図

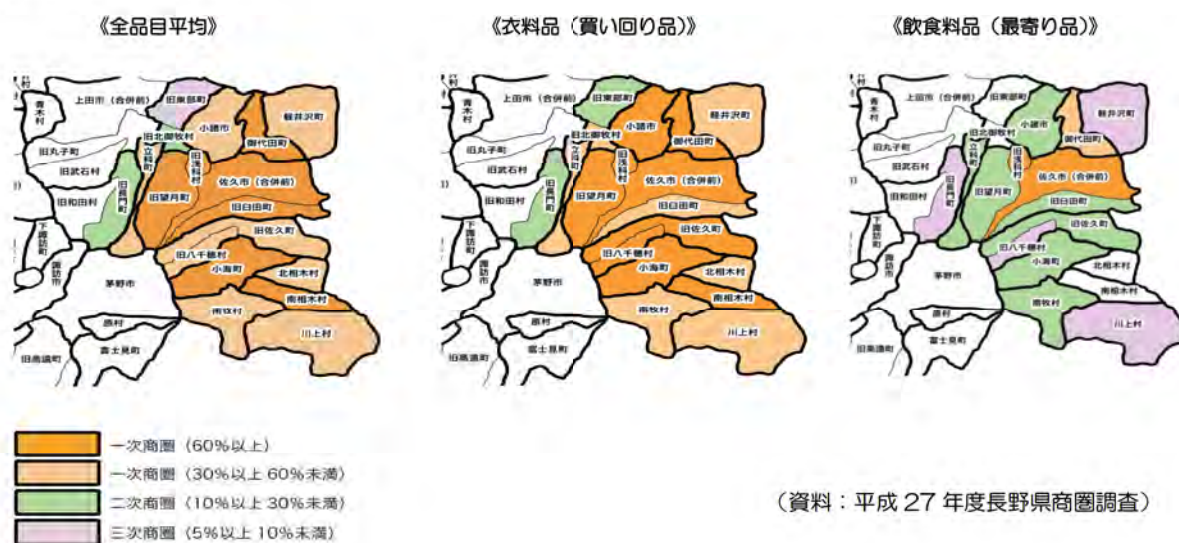


③商圏の状況

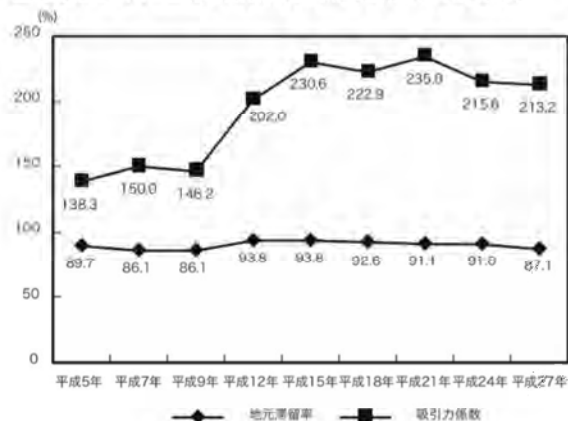
平成 27 年度長野県商圏調査結果から、佐久市（合併前）の商圏は周辺の町村に加え小諸市も含まれ、商圏の中心を形成しています。

地元滞留率は平成 12 年から、吸引力係数は平成 21 年から減少傾向にあります。また、商圏内の人口は平成 15 年までは増加していましたが、現在は漸減傾向にあります。

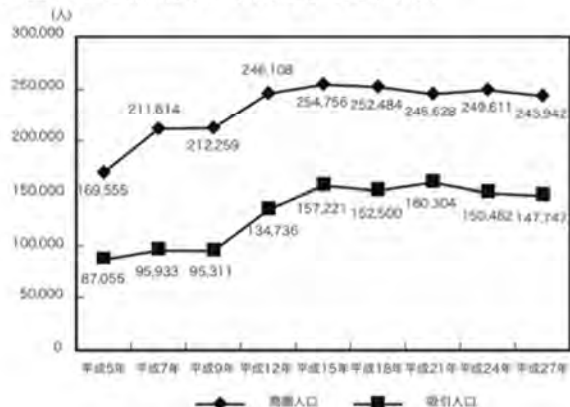
■商圏の状況（品目別）



■地元滞留率と吸引力係数（佐久市（合併前））



■商圏人口と吸引人口（佐久市（合併前））



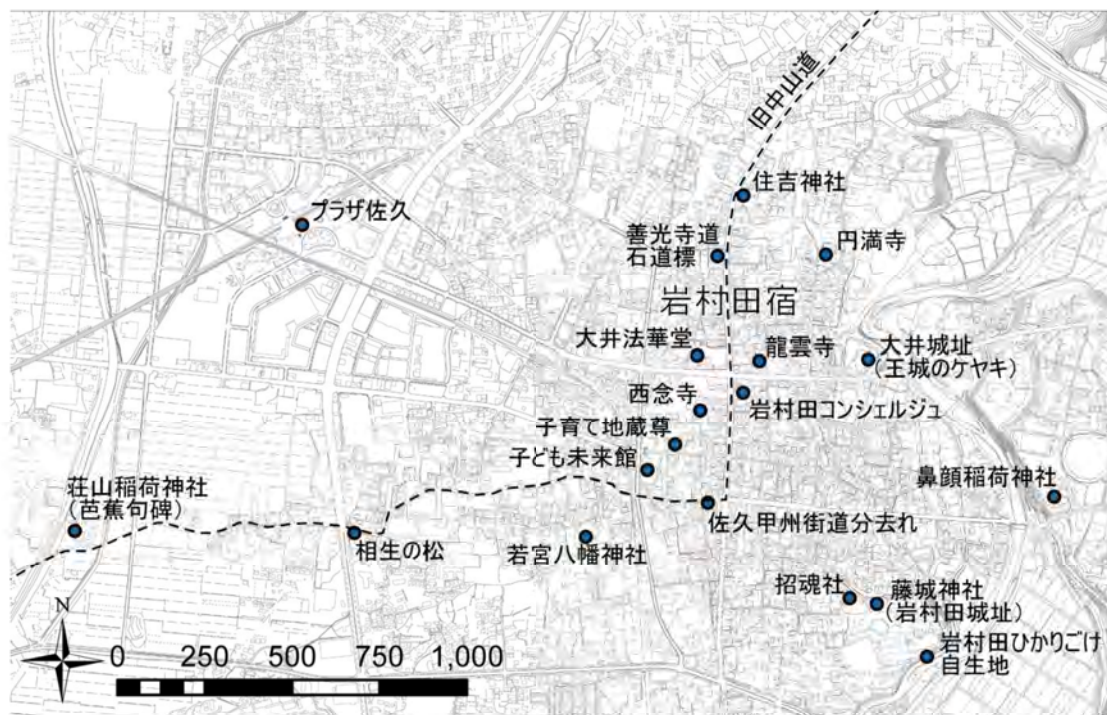
（資料：平成 27 年度長野県商圏調査）

注）長野県における調査結果を抜粋。過年度からの比較をするため、長野県商圏調査では、合併前の市町村単位で示されている。

④観光の状況

中心市街地の観光資源は、中山道の宿場町として栄えた岩村田地区を中心に寺社等の歴史資源が中心となります。また、科学の体験施設として佐久市子ども未来館があり、常設科学展示、プラネタリウム、科学体験工房等を備えています。

■中心市街地の観光資源



(資料：観光ガイドマップ信州佐久)

■岩村田祇園祭



⑤来訪者の目的地分析

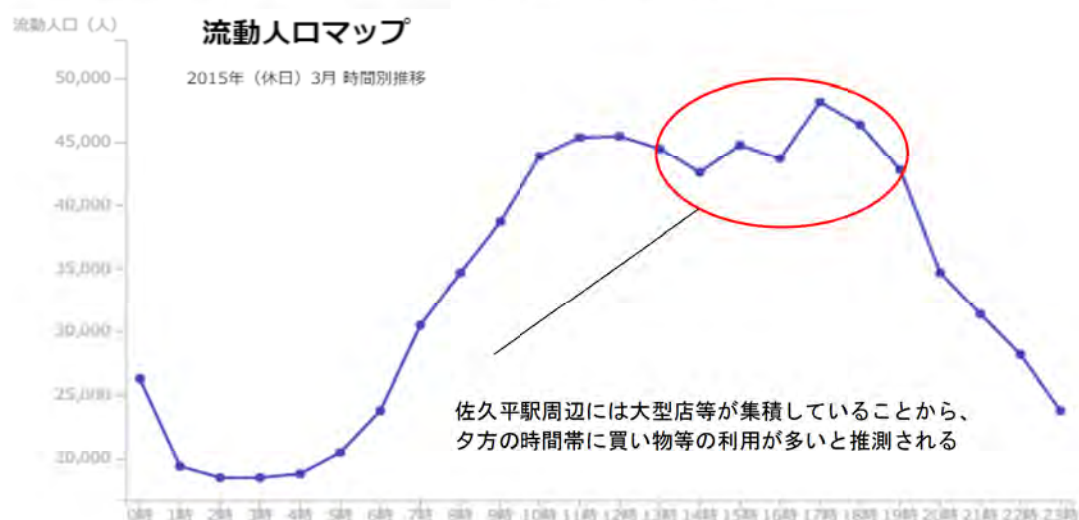
地域経済分析システム（RESAS）より休日の佐久市内の目的地検索ランキング（自動車利用者）を見ると、中心市街地では「イオンモール佐久平（上位 2 位）」、「佐久平プラザ 21（上位 4 位）」の利用があります。また、休日の中心市街地の流動人口を見ると、夕方の時間帯の流動人口が多く、佐久平駅周辺には大型店等が集積することから買い物等の利用が多いと推測されます。

■佐久市の目的地一覧（平成 28 年：休日、自動車利用）



（資料：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」地域経済分析システム RESAS）

■中心市街地の流動人口（平成 27 年：3月の休日の時間別推移）



（資料：株式会社 Agoop「流動人口データ」地域経済分析システム RESAS）

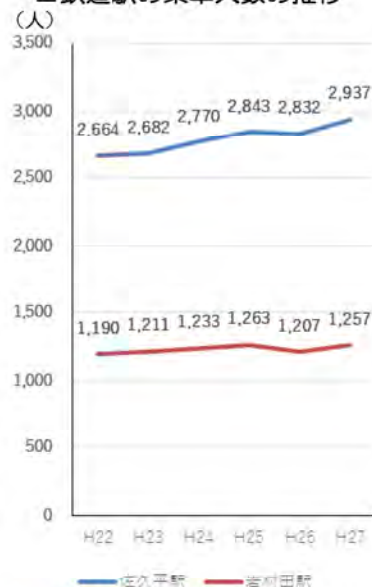
(5) 公共交通に関する状況

中心市街地には 2 つの鉄道駅があり、佐久平駅は北陸新幹線と小海線の乗換駅で首都圏や長野、北陸方面への接続点の役割を担っています。岩村田駅は岩村田地区の最寄駅となり、通勤・通学の利用が主となっています。

両駅の乗車人数の推移を見ると、佐久平駅は増加傾向にある一方、岩村田駅は横ばい傾向にあります。

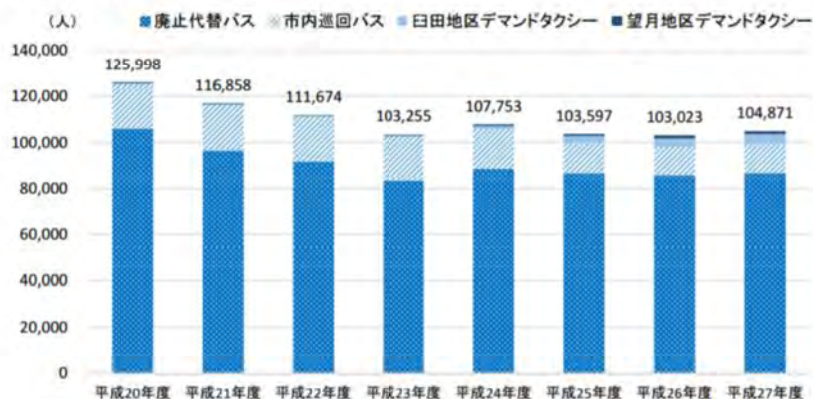
鉄道以外の公共交通としては、路線バス、デマンドタクシー※が運行されていますが、利用者数は平成23年度以降横ばいの状況にあります。一方で、運行維持のための市の経費負担は増加傾向にあります。

■鉄道駅の乗車人数の推移



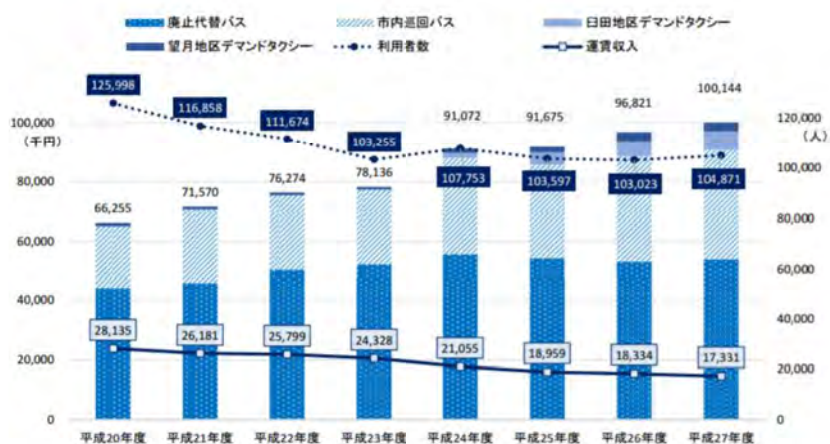
(出典：東日本旅客鉄道(株) HP より作成)

■利用者数の推移



(資料：佐久市地域公共交通網形成計画)

■利用者数、運賃収入、市の経費負担の推移



(資料：佐久市地域公共交通網形成計画)

注) デマンドタクシーとは、電話予約により、乗客の需要に応じて運行する乗合式のタクシーのこと。

[3] 地域住民等のニーズ

(1) 佐久市健康長寿まちづくり計画策定に向けた住民意識調査

《調査概要》

- ① 調査時期：平成 28 年 11 月
- ② 調査対象：佐久市内に居住する満 20 歳以上の市民 1,500 人

（中心市街地内（岩村田地区、長土呂地区）から計 750 人を無作為抽出
中心市街地外（上記以外の市内全地区）から計 750 人を無作為抽出

- ③ 調査方法：郵送による配布・回収
- ④ 回収数：610 人
- ⑤ 回収率：40.7%

《主な結果》

① 中心市街地（岩村田・佐久平駅周辺）に対する印象・居住意向

現在の中心市街地の印象（5 年前との比較）

- ・ 現在の中心市街地は 5 年前に比べて、『とても活気が出てきた』、『少し活気が出てきた』と回答した人の合計は 47.0%でした。中心市街地以外にお住まいの方のほうが、中心市街地の活気が出てきたと感じる方の割合が高いです。

現在の中心市街地の印象【中心市街地内外・年代別（思う・やや思うの合計）】

- ・ 中心市街地の印象として、充実していると『思う』、『やや思う』の合計が半数を超えたものは、『総合病院や個人病院など医療が充実している』が 78.5%、『食料品や日用品など日常生活に必要なものが買いやすい』が 69.5%、『飲食店が多く、外食しやすい』が 65.4%でした。
- ・ 中心市街地の印象として、充実していると『思わない』が多かったものは、『娯楽やレジャーなど遊ぶ場所が充実している』が 19.5%、『気軽に運動できる場所が充実している』が 19.3%、『公共交通機関が利用しやすい』が 17.4%、でした。
- ・ 中心市街地の印象として『思わない』と『それほど思わない』の合計が、『思う』と『やや思う』の合計よりも高かった項目は、『娯楽やレジャーなど遊ぶ場所が充実している』、『公共交通機関が利用しやすい』、『気軽に運動できる場所が充実している』、『文化施設や、習い事・カルチャースクールなどの生涯学習施設が充実している』、『宿泊施設が充実している』、『仕事・アルバイトなど働く場所が充実している』の 6 項目でした。

中心市街地への居住意向（中心市街地内外別・年齢別）

- ・ 中心市街地にお住まいの方はそのまま中心市街地に住む意向が強く、一方中心市街地以外にお住まいの方の中心市街地への移住の意向は弱いです。
- ・ 中心市街地内外別で居住の意向をみると、中心市街地以外にお住まいの方のほうが、『すぐにて

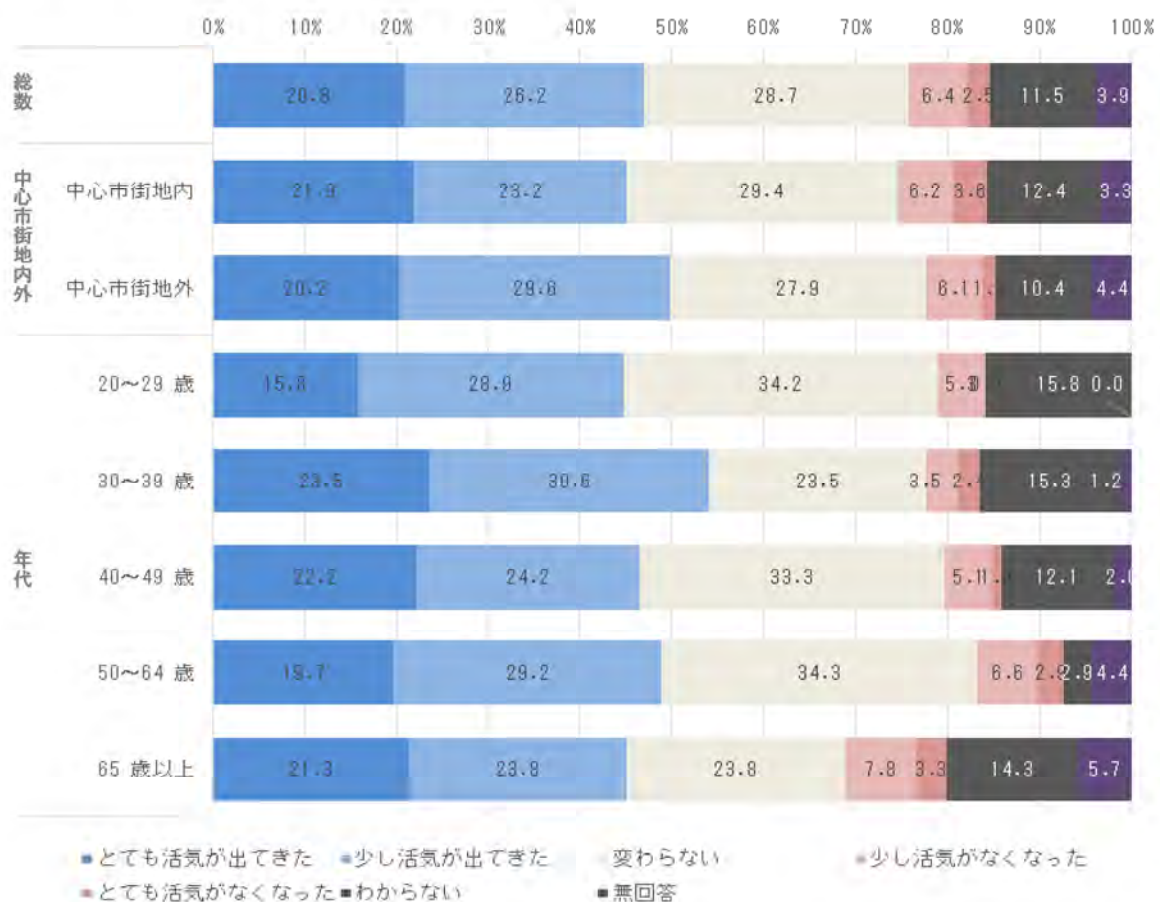
も移りたい』と回答する傾向がみられます。

- ・ 年齢別で居住の意向をみると、中心市街地内外ともに 30 代が『すぐにでも移りたい』及び『将来的には移りたい』の合計が、他の世代に比べ高い傾向にあります。

中心市街地に居住する人口が増えるために重要なこと（中心市街地内外別・年代別）

- ・ 居住する人口が増えるために重要なこととしては、『食料品や日用品を扱う商店や銀行など日常生活に必要な施設がそろっていること』が 44.1%で最も多く、次いで『病院や福祉施設などが充実していて利用しやすいこと』が 43.4%、『宅地が安価であること』が 33.9%、『公共交通機関が利用しやすいこと』が 33.2%と続きました。
- ・ 年齢別にみると、20 代から 40 代にかけて『家賃や価格の安いアパートやマンションがあること』と『宅地が安価であること』の居住に係るコストについての選択肢が3位までに入っており、全体と比較して特徴的な傾向が表れています。

■現在の中心市街地の印象（5 年前との比較）



■現在の中心市街地の印象【中心市街地内外・年代別（思う・やや思うの合計）】

		1位	2位	3位
全体		日常生活が便利で、暮らしやすいまち	高齢者にとって過ごしやすい、福祉・介護が充実したまち	安心して子育てができる環境や施設が充実したまち
		27.9%	13.4%	8.7%
中心市街地内外別	中心市街地内	日常生活が便利で、暮らしやすいまち	安心して子育てができる環境や施設が充実したまち	高齢者にとって過ごしやすい、福祉・介護が充実したまち
		31.7%	12.7%	11.8%
	中心市街地外	日常生活が便利で、暮らしやすいまち	高齢者にとって過ごしやすい、福祉・介護が充実したまち	新しいビジネスや産業が生まれる活力のあるまち
		24.6%	15.5%	7.1%
年代別	20～29 歳	日常生活が便利で、暮らしやすいまち	安心して子育てができる環境や施設が充実したまち	中心市街地から他の市街地へ公共交通機関で移動しやすいまち
		26.3%	26.3%	10.5%
	30～39 歳	日常生活が便利で、暮らしやすいまち	安心して子育てができる環境や施設が充実したまち	買い物や飲食を楽しむことができるまち
		25.9%	23.5%	9.4%
	40～49 歳	日常生活が便利で、暮らしやすいまち	県内外の人・もの・情報が交流する拠点となるまち	安心して子育てができる環境や施設が充実したまち
		35.4%	11.1%	6.6%
	50～64 歳	日常生活が便利で、暮らしやすいまち	高齢者にとって過ごしやすい、福祉・介護が充実したまち	県内外の人・もの・情報が交流する拠点となるまち
		24.8%	10.9%	8.8%
	65 歳以上	日常生活が便利で、暮らしやすいまち	高齢者にとって過ごしやすい、福祉・介護が充実したまち	新しいビジネスや産業が生まれる活力のあるまち
		28.3%	24.2%	6.6%

■現在の中心市街地の印象（思わない・それほど思わないの合計が多いもの）

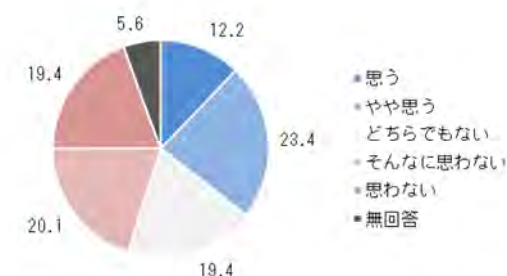
＜娯楽やレジャーなど遊ぶ場所＞



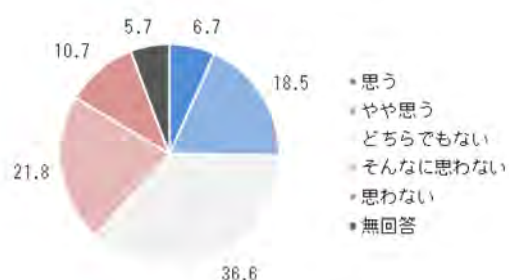
＜気軽に運動できる場所＞



＜公共交通機関＞



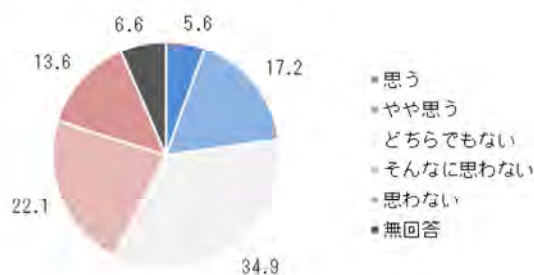
＜文化施設や、習い事・カルチャースクールなどの生涯学習施設＞



＜宿泊施設＞



＜仕事・アルバイトなど働く場所＞



■中心市街地への居住意向（中心市街地内外別・年代別）



■中心市街地に居住する人口が増えるために重要なこと（中心市街地内外別・年代別）

		1位	2位	3位
市全体		食料品や日用品を扱う 商店や銀行など日常生活 に必要な施設が そろっていること 44.1%	病院や福祉施設などが 充実していて利用 しやすいこと 42.8%	公共交通機関が利用 しやすいこと 34.8%
中心市街地 内外別	中心市街地内	食料品や日用品を扱う 商店や銀行など日常生活 に必要な施設が そろっていること 52.3%	病院や福祉施設などが 充実していて利用 しやすいこと 44.4%	公共交通機関が利用 しやすいこと 34.8%
	中心市街地外	病院や福祉施設などが 充実していて利用 しやすいこと 41.4%	食料品や日用品を扱う 商店や銀行など日常生活 に必要な施設が そろっていること 36.7%	公共交通機関が利用 しやすいこと 34.7%
年代別	20～29 歳	食料品や日用品を扱う 商店や銀行など日常生活 に必要な施設が そろっていること 44.7%	家賃や価格の安い アパートやマンション があること 42.2%	宅地が安価であること 36.8%
	30～39 歳	食料品や日用品を扱う 商店や銀行など日常生活 に必要な施設が そろっていること 40.0%	家賃や価格の 安いアパート やマンション があること 36.5%	公共交通機 関が利用し やすいこと 36.5%
	40～49 歳	宅地が安価であること 39.4%	食料品や日用品を扱う 商店や銀行など日常生活 に必要な施設が そろっていること 38.4%	公共交通機関が利用 しやすいこと 35.4%
	50～64 歳	公共交通機関が利用 しやすいこと 40.9%	食料品や日用品を扱う 商店や銀行など日常生活 に必要な施設が そろっていること 40.1%	病院や福祉施設などが 充実していて利用 しやすいこと 39.4%
	65 歳以上	病院や福祉施設などが 充実していて利用 しやすいこと 58.2%	食料品や日用品を扱う 商店や銀行など日常生活 に必要な施設が そろっていること 51.2%	公共交通機関が利用 しやすいこと 31.1%

②中心市街地（岩村田・佐久平駅周辺）のまちの望ましい将来像（あるべき姿）

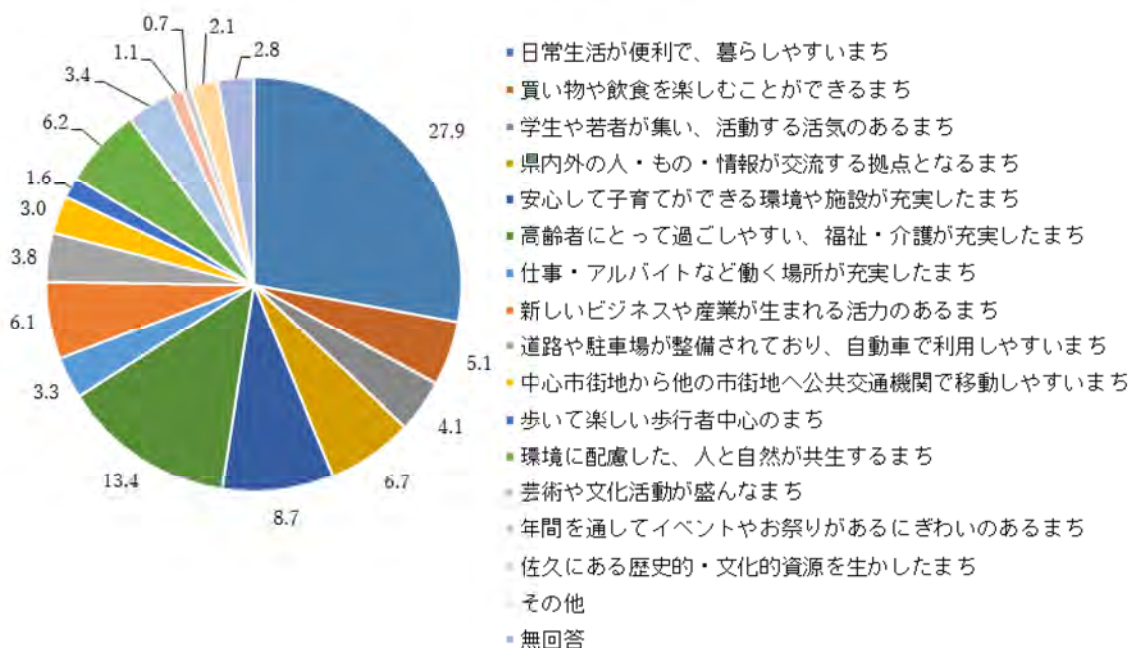
中心市街地が目指すべきまちの望ましい将来像（あるべき姿）

- ・ 中心市街地が目指すべきまちの望ましい将来像（あるべき姿）としては、『日常生活が便利で、暮らしやすいまち』が27.9%で最も多く、次いで『高齢者にとって過ごしやすい、福祉・介護が充実したまち』が13.4%、『安心して子育てができる環境や施設が充実したまち』が8.7%、と続きました。

中心市街地が目指すべきまちの望ましい将来像（あるべき姿）を実現するために重要な事業・取組

- ・ 今後、中心市街地が目指すべきまちの望ましい将来像（あるべき姿）を実現するために重要だと思われる事業や取組として、『思う』、『やや思う』の合計が多いものとしては、『地元の商業・サービス店舗の魅力向上』及び『介護・医療サービスの充実』が73.6%で最も多く、次いで『公共交通機関の利便性の向上』が72.8%と続きました。
- ・ 年代別でみると、各年代で重要だと思われる事業が異なりました。20代では『買い物や飲食・レジャーが楽しめる施設の充実』が92.1%、30代では『保育園・幼稚園等の整備と子育て支援の充実』が84.7%、40代では『地元の商業・サービス店舗の魅力向上』が82.8%、50代以上では『介護・医療サービスの充実』が79.6%、65歳以上では『介護・医療サービスの充実』が70.9%と最も多いです。

■中心市街地が目指すべきまちの望ましい将来像〔あるべき姿〕



■ 中心市街地が目指すべきまちの望ましい将来像（あるべき姿）を実現するために重要な事業・取組

		1位		2位				3位	
市全体		介護・医療サービスの充実	地元の商業・サービスの店舗の魅力向上					公共交通機関の利便性の向上	
		73.6%	73.6%					72.8%	
中心市街地内外別	中心市街地内	介護・医療サービスの充実		地元の商業・サービスの店舗の魅力向上				歩道や自転車道の整備	
		77.8%		77.5%				75.2%	
	中心市街地外	地元の商業・サービスの店舗の魅力向上		公共交通機関の利便性の向上				介護・医療サービスの充実	
		72.4%		71.7%				69.7%	
年代別	20～29 歳	買い物や飲食・レジャーが楽しめる施設の充実		公共交通機関の利便性の向上	介護・医療サービスの充実	保育園・幼稚園等の整備と子育て支援の充実	歩道や自転車道の整備		
		92.1%		84.2%	84.2%	84.2%	84.2%		
	30～39 歳	保育園・幼稚園等の整備と子育て支援の充実		買い物や飲食・レジャーが楽しめる施設の充実		公共交通機関の利便性の向上			
		84.7%		81.2%		81.2%			
	40～49 歳	地元の商業・サービスの店舗の魅力向上		買い物や飲食・レジャーが楽しめる施設の充実				公共交通機関の利便性の向上	歩道や自転車道の整備
		82.8%		77.8%				76.8%	76.8%
	50～64 歳	介護・医療サービスの充実		地元の商業・サービスの店舗の魅力向上		買い物や飲食・レジャーが楽しめる施設の充実			
		79.6%		78.1%		78.1%			
	65 歳以上	介護・医療サービスの充実		公共交通機関の利便性の向上				地元の商業・サービスの店舗の魅力向上	
		70.9%		66.8%				66.8%	

③健康長寿を生かしたまちのイメージ

健康長寿を生かしたまちのイメージ【中心市街地内外別・年齢別（思う・やや思うの合計）】

- ・ 「健康長寿を生かしたまち」のイメージとして『思う』及び『やや思う』の合計が多いものとしては、『高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち』が86.1%で最も多く、次いで『日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち』が85.4%、『専門的で高度な医療を受けることができるまち』が83.6%と続きました。
- ・ 年齢別でみると、20代から30代にかけては『子育てがしやすい環境が整っているまち』が1位になっており、佐久市全体や他の世代には見られない傾向が現れています。

■健康長寿を生かしたまちのイメージ【中心市街地内外別・年齢別（思う・やや思うの合計）】

		1位		2位		3位
総数		高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち		日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち		専門的で高度な医療を受けることができるまち
		86.1%		85.4%		83.6%
中心市街地内外別	中心市街地内	高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち	専門的で高度な医療を受けることができるまち			日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち
		87.3%	87.3%			85.6%
	中心市街地外	高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち		日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち		専門的で高度な医療を受けることができるまち
		85.2%		84.2%		81.8%
年代別	20～29 歳	高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち	子育てがしやすい環境が整っているまち			日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち
		94.7%	94.7%			92.1%
	30～39 歳	子育てがしやすい環境が整っているまち		高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち	日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち	専門的で高度な医療を受けることができるまち
		94.1%		90.6%	90.6%	90.6%
	40～49 歳	高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち		専門的で高度な医療を受けることができるまち		日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち
		94.9%		90.9%		85.9%
	50～64 歳	日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち		高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち		専門的で高度な医療を受けることができるまち
		91.2%		89.8%		86.9%
	65 歳以上	日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち		高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち		専門的で高度な医療を受けることができるまち
		79.9%		78.7%		77.0%

(2) 佐久市健康長寿まちづくり協議会ワークショップ結果

健康長寿の観点を取り入れた佐久市の中心市街地のまちづくりを協議することを目的に、中心市街地の活性化に関わりある団体等から構成される「佐久市健康長寿まちづくり協議会」を設置し、中心市街地のまちづくりを進める上での課題、将来像、取組方向等に関して協議を進めました。

同協議会では、協議会委員のほか中心市街地の商店街等の関係者を加えたワークショップを開催し、テーマ別に課題、対応方向をとりまとめました。

《実施概要》

- ① 開催日時：平成 28 年 10 月 3 日（月）13 時 30 分から 16 時まで
- ② 開催場所：佐久市消防署 3 階会議室
- ③ 参 加 者：佐久市健康長寿まちづくり協議会委員ほか関係団体
- ④ ワークショップ概要：
中心市街地の現状データを参考に、テーマ別に 3 班に分かれ、各班のテーマに関して「現状評価を踏まえた課題と対応方向」を整理しました。

《テーマ別のとりまとめ》

テーマ 1：『商業と生活』

課題① 大型店とは異なる「おもてなし」の充実

方向性 イベントの充実

- 取組
- ・飲み歩きBALの開催
 - ・お見合いイベントの開催
 - ・お祭りやイベントの定例化

方向性 高齢化社会への対応

- 取組
- ・段差の解消や多機能トイレなどの街のバリアフリー化
 - ・飲食店における高齢者向けのメニューの開発

方向性 にぎわいの演出

- 取組
- ・チャレンジショップの普及
 - ・店舗外観の整備

課題② 観光や大型店にきた人を取り込む

方向性 適確な情報発信

- 取組
- ・SNS等での情報発信
 - ・FMの拡充や連携
 - ・スタンプラリーのアプリの制作

方向性 多様な交通手段の充実

- 取組
- ・街歩きMAPの作成
 - ・イベント時の送迎バスの運行
 - ・市内巡回バスの拡充
 - ・駐車場の整備

方向性 外国の方（インバウンド）へ対応

- 取組
- ・外国人のインバウンドに対するニーズの調査と分析
 - ・歴史ある中山道を活かしたツアーの実施

テーマ2：『医療・福祉・生活』

課題① 市民の健康づくりを促進させる

方向性 食育の推進

- 取組
- ・脳卒中予防・糖尿病予防の食事提供ができるレストランの開業
 - ・郷土料理教室の実施
 - ・健康づくりのための情報発信

方向性 日常的な運動の促進

- 取組
- ・健康づくりの拠点施設を開設
 - ・健康体操のイベントや大会の実施
 - ・歩道の拡張、サイクリング道の新設

課題② 高齢者の生活を支える

方向性 予防医療・健康増進の充実

- 取組
- ・デイサービスの充実
 - ・長寿の秘訣の発信
 - ・商住近接のまちづくり
 - ・まちなかのバリアフリー化
 - ・まちなかへの住み替え
 - ・地域とのふれあいの機会をつくる

課題③ 子どもの減少を食い止める

方向性 子どもが育てやすい環境作り

- 取組
- ・子どもに対する医療費の軽減
 - ・若者対象の公営住宅の建設
 - ・子育てサロンの充実

方向性 若者(子育て世代)の就学・就業の場の創出

- 取組
- ・企業の誘致
 - ・農産物のブランド化
 - ・就農体験の充実
 - ・地元企業や地場産業への支援拡充
 - ・地場産業を支援するマネジメント人材の育成

方向性 若者・来訪者・移住者を増やす

- 取組
- ・大学や専門学校の誘致
 - ・地価の適正な管理
 - ・途上国からの就業者育成システムの構築
 - ・周辺地域の若者への佐久の情報発信
 - ・若者を対象にしたイベントの開催

ワークショップの風景



テーマ3：『定住・移住、観光』

課題① 若者のUターン・Iターンの定着

方向性 生活環境の改善

- 取組
- ・専門店の誘致
 - ・駅周辺に若者用定住移住促進の住居を建設
 - ・総合運動場、武道館等の利用促進
 - ・深夜のバスの運行
 - ・大学（工業系）や専門学校の誘致

方向性 郷土愛を育む

- 取組
- ・自然環境の保護
 - ・郷土愛の教育の充実

方向性 企業の誘致

- 取組
- ・企業（IT・情報、製造業、医療福祉系等）の誘致
 - ・健康長寿に係る研究所・工場の誘致
 - ・工業団地の整備
 - ・企業用地やインフラの整備
 - ・樋橋地区に企業を誘致

方向性 地元企業の再興

- 取組
- ・地場農業の維持
 - ・農産物や特産品のブランド化
 - ・地元企業や地場産業の後継者育成

課題② 長期滞在者の増進

方向性 適確なPR活動

- 取組
- ・ターゲットを絞った広報活動（自転車愛好者、山登り愛好者、歴史愛好者、グルメ）
 - ・佐久出身の有名人や著名人を活用したPR

方向性 観光資源の充実

- 取組
- ・自転車用道路やトレイルランニング※¹の環境整備
 - ・各観光施設を連携させた周遊コースの整備
 - ・ワイナリー、鯉料理、地元の酒造、歴史建造物を巡るツアー
 - ・真夜中の小海線星空ツアー
 - ・観光地への路線バスの増加
 - ・聖地巡礼コースの整備
 - ・徒歩圏内のウォーキングコースの整備
 - ・企画やイベントの通年化
 - ・行政・民間ボランティアの充実
 - ・名物・特産品の開発

方向性 大規模集客施設の建設

- 取組
- ・買い物・スポーツ・娯楽施設の建設
 - ・樋橋地区にコンベンションホール※²、ホテル、バスターミナルの建設
 - ・国際展示場や国際会議場の新設
 - ・文化ホールを新設
 - ・ホテルの誘致
 - ・県と合同のコンベンションセンターの建設
 - ・医療・大学と連携した世界最高のトレーニング施設

注1）トレイルランニングとは、陸上競技の中長距離走の一種で、舗装路以外の山野を走るものを指す。

注2）コンベンションホールとは、展示会、講演会、シンポジウム、学会、会議や発表会等に用いることができる多目的ホールのこと。

(3)「まち・ひと・しごと創生」に関するアンケートにみる市民等のニーズ

《調査概要》

① 市民アンケート調査

対 象 者：市内に住所を有する 16 歳から 39 歳までの男女 1,000 人

抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

調査期間：平成 27 年 6 月 18 日から平成 27 年 7 月 6 日まで

回収数等：回収数 435 票（うち無効 3 票）、有効回収率 43.2%

② 転出者アンケート調査

対 象 者：過去 2 年以内に佐久市から転出された 18 歳以上の男女 1,000 人

抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

調査期間：平成 27 年 6 月 18 日から平成 27 年 7 月 6 日まで

回収数等：回収数 343 票（うち無効 1 票）、有効回収率 34.2%

③ 企業アンケート調査

対 象 者：市内の事業所 100 社

調査期間：平成 27 年 7 月 17 日から平成 27 年 8 月 3 日まで

回収数等：回収数 62 票（うち無効 0 票）、有効回収率 62.0%

④ 高校、大学・専門学校アンケート調査

対 象 者：市内の高等学校（7 校）、専門学校・大学（5 校）

調査期間：平成 27 年 7 月 9 日から平成 27 年 7 月 23 日まで

回収数等：回収数 12 票（うち無効 0 票）、有効回収率 100%

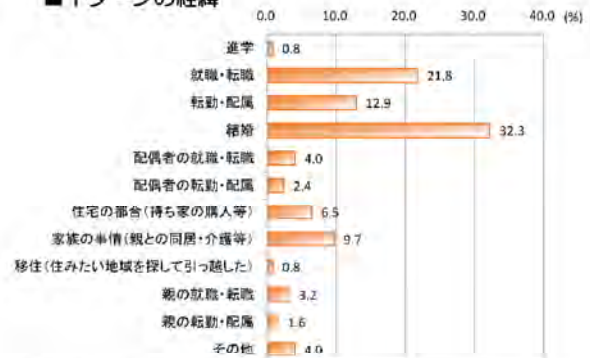
《主な結果》

◆市民アンケート調査

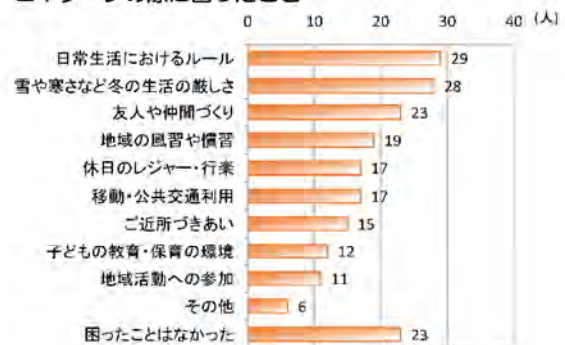
■ I ターンの状況について

- ・ 佐久市に転入してきた経緯は、結婚が 32.3%で最も多く、次点に就職・転職（21.8%）、転勤・配属（12.9%）であった。佐久市転入直前の居住地域は長野県が 59.2%で突出している。次いで、東京都（9.6%）、神奈川県（5.6%）、埼玉県（4.8%）、群馬県（4.0%）と続き、首都圏からの転入が目立った。
- ・ 転入してから、これまでに困ったこととしては、「日常生活におけるルール（29人）」や「冬の生活の厳しさ（28人）」が多くみられた。また転入に際し、望ましい支援としては、「住宅に関する斡旋や補助等の支援」、「仕事探しに関する支援」、「医療や子育て情報の提供」等がみられた。

■ I ターンの経緯



■ I ターンの際に困ったこと



Uターンの状況について

- 佐久市から転出した経緯は、進学が79.7%で、次点が就職・転職による転出で8.0%であった。転出先は東京都が29.8%と最も多く、続いて長野県(23.1%)、埼玉県(11.6%)であった。Uターンをした経緯は、就職・転職が54.5%と最も多く、次点に卒業(14.2%)、家庭の事情(6.7%)と続いた。

■Uターンの経緯



暮らしやすい点・暮らしにくい点について

- 暮らしやすい点としては、自然環境をあげる人が圧倒的に多い(68.8%)ほか、治安の良さ(37.1%)、生活環境の便利さ(31.4%)が評価されている。
- 暮らしにくい点としては、交通の便の悪さ(26.6%)、文化・スポーツ施設の不十分さ(21.9%)、通勤・通学の不便さ(21.4%)、子育て環境の不十分さ(18.6%)などが上位にあがっている。

■佐久市の暮らしやすい点



■佐久市の暮らしにくい点



人口減少社会に対する今後の方策について

- 安定した雇用を創出する(33%)、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる(31%)、時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する(22%)、新しいひとの流れをつくる(14%)の順だった。

■人口減少社会における今後の方策



◆転出者アンケート調査

- 佐久市に戻るとしたら、**就職や転職(25.9%)**が最も多く、次点で定年退職(12.2%)、市外での暮らしや仕事にある程度満足したら(10.2%)、住宅を取得する(8.2%)と続いた。
- Uターン促進のために望ましい施策としては、大きくわけて、雇用、子育て、住宅の支援を望む声が見られた。

◆企業アンケート調査

- 佐久市で事業をする上でのメリットとしては、**交通の便が良いが 51.8%**で最も多く、続いて、自然条件が良い(44.6%)、地域の中核的な都市で、様々な機能が集積している(28.6%)、土地の面積や価格など条件が良い(13%)だった。
- 佐久市で事業をする上でのデメリットとしては、**人材が確保しにくい(43.6%)**、取引先が少ない(30.9%)、顧客が少ない(20.0%)、競合が多い(12.7%)、地域の中核的な都市ではあるが、様々な機能が集中していない(10.9%)だった。

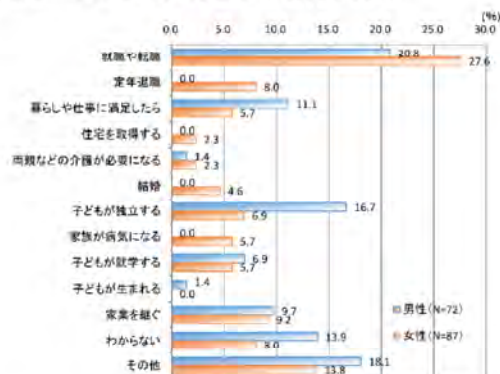
◆高校、大学・専門学校アンケート調査

- 高卒就業者の就職先は佐久市内(30.9%)**、佐久市近郊地域(33.7%)、その他長野県内(28.8%)と地元(南北佐久地域)志向が強く、自宅から通える場所を選ぶ生徒が多いのが特徴である。
- 高卒就業者の地元就職を促進する取組としては、「企業への地元学生の採用の呼びかけ」が7校中4校の回答があった。
- 大学・専門学校卒就業者は、**その他長野県内が47.2%で最も多く**、続いて佐久市内(33.6%)、佐久市近郊(13.1%)だった。
- 大学・専門学校と地域(企業、小・中・高)の連携・交流に関する要望が見られた。

■地元就職が進むと思われる行政支援



■Uターンのきっかけとして考えられる

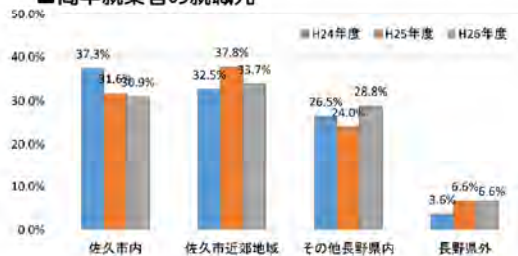


■佐久市で事業をするうえで良い点・悪い点



※割合は回答事業所数ベース

■高卒就業者の就職先



■大学・専門学校卒就業者の就職先



〔4〕 佐久市及び中心市街地の課題

地域の現状分析や地域住民等のニーズ分析等により、本市及び中心市街地におけるまちづくりの課題を以下に整理します。

（定住に資する就業環境整備）

地元就職を希望する学生や就職を機に地元へのＵターンを考えている学生等がいる一方で、市内企業の中には人材の確保が課題と考えている企業があり、企業側が求める人材とのマッチングや人材の育成が必要です。

本市には、地域医療の歴史や地域と一体となった保健予防活動などによる「健康長寿のまち」としての強みがあります。この強みを生かした産業の集積や起業支援により、若い世代や都市部からの移住者に選ばれる就業環境の整備が求められます。

（子育て世代の移住促進）

本市全体の人口は減少傾向にありますが、中心市街地の人口は増加傾向にあります。しかしながら、中心市街地の年齢構成を見ると 20 歳代前半が少なく、これらの年齢層の流出抑制策の検討や少子高齢社会の進行に対応するため、子育て世代の移住促進が求められます。

（経済活力の向上）

中心市街地は商店街や大型店といった小売店舗が市内他地域よりも集積している一方で、年間小売販売額は減少傾向にあり、中心市街地の経済活力の向上が必要です。

大型店と商店街ではこれまで電子マネーの共通利用を行うなど、販促活動の連携を行っているものの、中心市街地の年間販売額に占める大型店の割合は広がり、現在は約 9 割となっています。地元の商業・サービス店舗の魅力向上を望む声が多いことから、さらなる連携策の検討・実施や、大型店と商店街が行き来しやすい環境整備を進めることで、買い物客を回遊させる仕組みが求められます。

（地域資源の活用）

中心市街地や市内には旧中込学校や五稜郭、旧中山道をはじめとする歴史資源や自然環境、農産物などの地域資源があります。

これらの資源の効果的な活用による交流人口の創出を図るため、情報発信力の強化や資源のネットワーク化により、来訪者の増加に結びつけることが求められます。

（地域公共交通の利便性向上）

機能集約・ネットワーク型まちづくりを進める上で、拠点地区同士を結ぶ機関交通網の整備を図るとともに、周辺地域から中心市街地へのアクセス交通の確保など、公共交通の利便性向上が求められており、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築が必要です。

■市民交流ひろば



〔5〕上位計画及び関連計画におけるまちづくりの基本方向

（１）第二次佐久市総合計画（平成２９年度～平成３９年度）

１）基本理念：

- ・「市民の実感から始まり、実感に結びつく」まちづくり
- ・「ひとと地域の絆をさらに強め、広げる」まちづくり
- ・「新しい発展の可能性に挑戦する」まちづくり

２）将来都市像： 「快適健康都市 佐久」

副 題： 「希望をかなえ 選ばれるまちをめざして」

３）土地利用構想：

- ア 市土の特性を最大限に生かした土地利用の推進
- イ 都市的土地利用と自然的・農業的土地利用の調和
- ウ 安全な暮らしの確保と快適に住み続けられるまちづくり
- エ 地域の特徴を生かした機能の集約とネットワーク化
- オ 経済の活性化と地域社会の維持
- カ 豊かな暮らしを支える健康長寿のまちづくり

４）中心市街地での主な取組

○都市基盤分野

〈良好な市街地の形成〉

- ・樋橋地区においては、佐久平駅周辺や岩村田地区と連携し、本市の中心市街地として整備を図るとともに、佐久広域圏の拠点地域として都市機能を高める土地利用を推進し、地域間交流の中心地として魅力の向上を図ります。

○経済産業分野

〈魅力ある商店街の形成〉

- ・商店会組織の機能強化を促進するとともに、街おこし事業、活性化事業を支援します。
- ・商店街の魅力を高めるため、空き店舗の解消と環境整備を支援します。
- ・空き店舗などを活用した、起業のためのチャレンジショップの整備を促進します。
- ・電子商店街などのインターネット商取引や電子マネーの導入を支援します。
- ・魅力的で快適な商店街を形成するため、ユニバーサルデザイン※を導入した整備を支援します。

〈魅力ある中心市街地の形成〉

- ・佐久市中心市街地活性化基本計画に基づき、市民、事業者など一体となって、にぎわいと魅力がある中心市街地の形成を図ります。

〈良好な商業環境の形成〉

- ・既存商店街と地域の活性化に配慮した商業集積を図ります。
- ・まちづくり３法に基づき大型店出店が適切に行われるよう、関係機関との連携強化を図ります。
- ・商店街が行う買い物弱者などに対するきめ細かなサービスへの支援に努めます。

注）ユニバーサルデザインとは、年齢、性別などに関係なく誰でも使用することができる製品などの設計・デザインのこと。

(2) 佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年度～平成 31 年度）

1) 基本目標：

- ①安定して働き続けることができる佐久市における「しごと」の創生
- ②多くの人に選ばれることができる佐久市における「ひと」の創生
- ③安心して結婚し、子どもを生み育てることができる佐久市における「ひと」の創生
- ④安心して暮らし続けることができる佐久市における「まち」の創生

2) 主な取組（中心市街地と強く関係するものは太字）

- ① ・市内既存企業の工場建設及び生産設備導入への経費補助
・長者原地区等の野菜・果樹栽培の一大産地化支援
・新規就農希望者研修制度の構築
・保健・医療分野における視察研修の受入拡大と国際展開
「健康長寿」を国内外に発信・展開できるブランドとして確立するとともに、保健医療分野における海外からの視察研修の受入と帰国後のフォローアップ体制を充実させ、本市の保健医療福祉のシステムやヘルスケア関連機器等を世界に広げていく。
- ・健康長寿を生かした産業の活性化とまちづくりの推進
ヘルスケア関連産業の集積や新製品・新技術の開発等の支援により、地域産業の活性化を図るとともに、健康食やフィットネス※1などの健康長寿を体験できるまちづくりの推進により、国内外からの新たな交流人口を創出する。
- ・移住者の雇用に対する補助
- ② ・佐久市における生涯活躍のまち（日本版CCRC）の構築
「医療・介護環境の充実」などの本市の地域資源を生かし、生涯活躍のまち（日本版CCRC※2）の構築に積極的に取り組んでいくことにより、移住者の増加を図る。
- ・インターンシップ※3に参加する学生に対する補助
- ・首都圏における市内企業のPRイベントの開催
- ・佐久市奨学金の償還の一部免除
- ③ ・保育料の負担軽減
・ひとり親家庭の親の学び直しの支援
・ひとり親家庭等の子どもの学習支援・居場所づくり
・未婚の若者を対象とした恋愛・結婚・子育てに関する講座・イベントの開催
・妊産婦に対する医療費の助成
- ④ ・樋橋地区開発のための調査・支援
佐久平駅周辺地域の南側に位置する樋橋地区の開発に対する支援を行い、新たな魅力あふれるまちづくりを行う。
- ・中心市街地活性化基本計画の策定
中心市街地活性化法に基づく「中心市街地活性化基本計画」を策定し、住民生活の利便性向上及び持続可能な都市の構築を図る。

注1）フィットネスとは、健康や体力の維持・向上を目的として行う運動のこと。

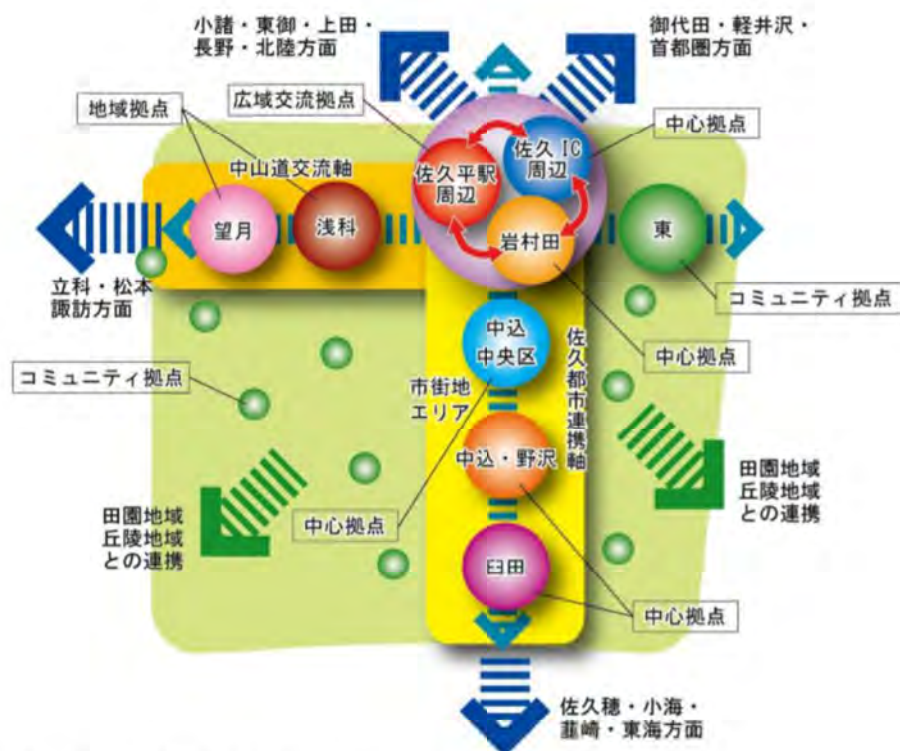
注2）CCRCとは、仕事をリタイアした人が元気なうちに地方に移住し、第二の人生を健康的に、また必要な時には医療と介護のケアを受けて住み続けることができる場所のこと。

注3）インターンシップとは、学生が定められた期間、企業の現場などで就業体験すること。

(4) 佐久市立地適正化計画（平成 29 年度～平成 49 年度）

1) 新たな都市構造による拠点の設定

新たな都市構造においては、佐久平駅周辺の拠点としての位置づけを高く評価するとともに、各拠点の役割・性格を明確化し「広域交流拠点」・「中心拠点」・「地域拠点」・「コミュニティ拠点」の 4 つの拠点類型を位置づけ、以下のとおり設定します。



2) 都市機能誘導区域（佐久平駅周辺地区・岩村田地区）

・広域交流拠点（佐久平駅周辺地区）

本市の発展を牽引するとともに、まちの魅力を創出し、市民全体に便益を供するような高次都市機能については、広域交流拠点に誘導を図ります。

また、広域交通網の結節点である強みを生かし、市域を越えた広域的なサービスを提供する拠点として、岩村田地区と一体となって「都市機能拠点ゾーン」を形成し、樋橋地区の開発動向を視野に入れながら、高次都市機能の集積や身近な生活利便施設の充実を図ります。

・中心拠点（岩村田地区）

地域において一定の拠点性を有する都市機能については、地域資源と捉え、地域の質を高め特徴ある発展を支える核として中心拠点への誘導を図るとともに、他の拠点との適正な機能分担のもと、集約と連携によるまちづくりを推進する必要があります。

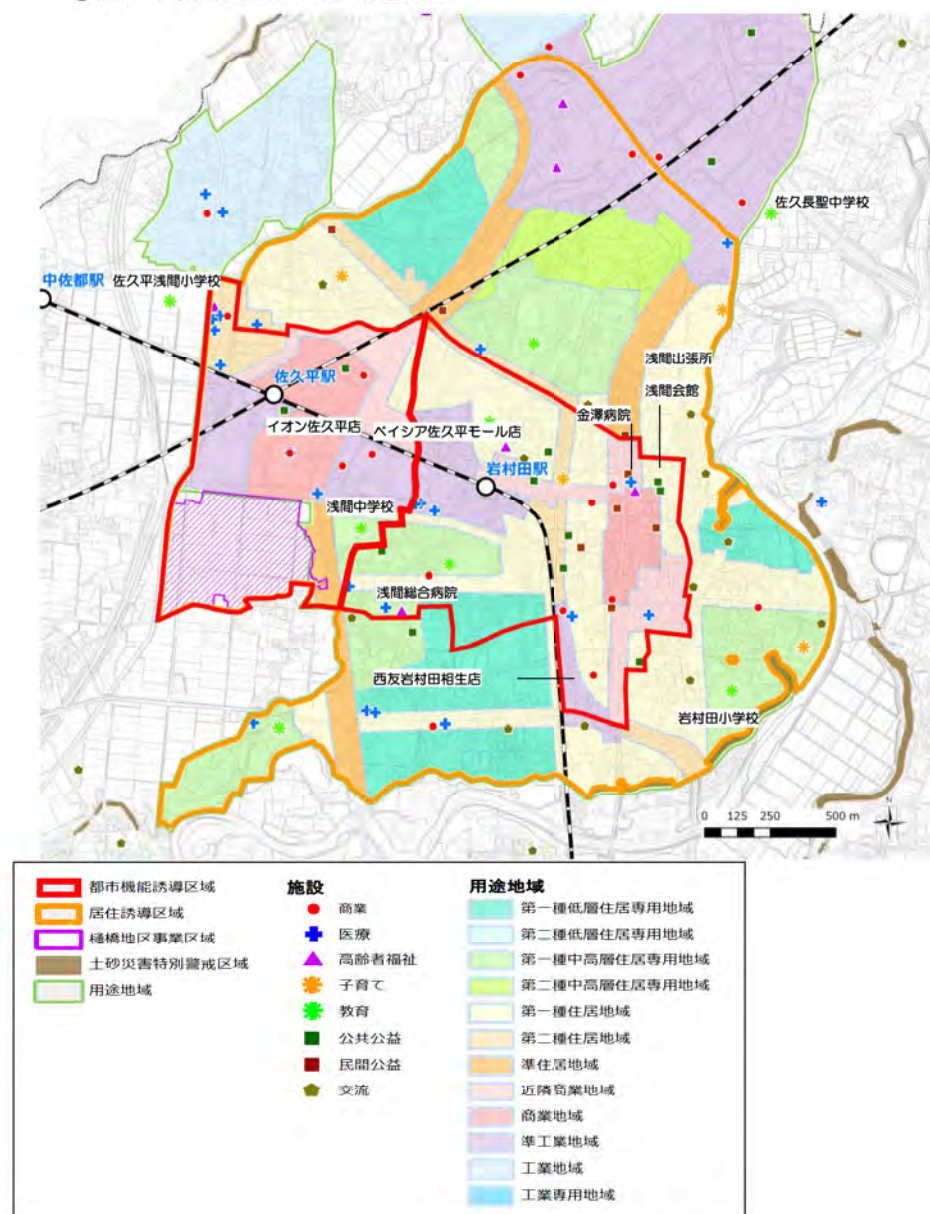
これに加え、日常生活を支える身近な生活利便施設についても、中心拠点に誘導し、あわせて集落部から容易にアクセスできるような交通体系の構築を目指します。

3) 居住誘導区域（佐久平駅周辺地区・岩村田地区）

都市機能誘導区域内における施策の充実により、都市生活の利便性や快適性の増進を図るとともに、良好な居住環境の維持・向上に向けた取組を推進することで、暮らしやすさを確保し、緩やかな居住の誘導を図ります。

あわせて、空き家バンク事業や佐久市移住促進プラン、佐久市生涯活躍のまち構想等の移住関連施策との整合を図り、市内外から多くの人を呼び込めるような魅力的な居住空間の創出を目指します。

① 佐久平駅周辺地区・岩村田地区



※施設については平成 28 年 11 月現在のもの

■上位計画及び関連計画におけるまちづくりの基本方向

○上位計画の方向性

- 第二次佐久市総合計画では、これまで培われてきた豊かな自然・文化と都市機能が調和した快適な生活環境や、関係機関・団体、行政が一体となって支える市民の健康づくりといった佐久市の魅力・強みをさらにより良いものとしていくこととし、将来都市像「快適健康都市 佐久」（副題：希望をかなえ 選ばれるまちを目指して）を掲げ、住む全ての「ひと」が「暮らしやすい」、「暮らして良かった」と思えるまち、心身ともに健やかに暮らせるまちを目指す姿としています。

また、安心して出産、子育てをしたい、健康で生き生きと暮らしたい、自然・文化とふれあいたいといった様々な希望を実現できる「まち」となることで、佐久市内外の多くの人が佐久市で暮らしたい、働きたい、佐久市に行きたいと思うまちになることを目指しています。

○関連計画の方向性

- 佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、中心市街地に関連する取組として、「保健・医療分野における視察研修の受入拡大と国際展開」「健康長寿を生かした産業の活性化とまちづくりの推進」といった保健・医療分野や産業分野のほか、「移住者の雇用」「子育て世代への支援」「生涯活躍のまち（日本版CCRC）の構築」「若い世代のUターンを狙った各種取組」といった定住促進に関する取組があげられます。

- 佐久市都市計画マスタープランでは、中心市街地として形成されてきた中心拠点の岩村田地区及び広域交流拠点の佐久平駅周辺は、北陸新幹線や上信越自動車道などの交通の要衝であり、広域商業等の高次都市機能の集積が進む佐久平駅周辺市街地と古くから歴史や文化が残る岩村田市街地からなり、新たな拠点性の充実強化と歴史的文化との調和によるまちづくりが求められています。

また、中心市街地の一部を形成する岩村田地区は、①広域交通ネットワークの結節拠点、②広域的な商業・業務の集積拠点、③豊かな歴史文化の集積拠点、④多様な人々が訪れる交流拠点として位置づけられています。

- 佐久市立地適正化計画でも、佐久平駅周辺地区を広域交流拠点に、岩村田地区を中心拠点に位置付け、都市機能誘導区域としています。また両拠点を併せ、市域を越えた広域的なサービスを提供する拠点として「都市機能拠点ゾーン」の形成を目指しています。また、この都市機能拠点ゾーンを囲うように居住誘導区域が設定されており、空き家バンク事業等の移住関連施策により、魅力的な居住空間を創出し、域外からの移住・定住の促進を目指しています。
- 地域公共交通網形成計画では、佐久平・岩村田地区を、拠点地区間をつなぐ幹線交通（都市連携軸と中山道交流軸）の結節、かつ、周辺の東地区などへの支線交通の拠点として位置づけています。

3 健康長寿まちづくりの基本方針と主要施策

〔1〕 将来像とまちづくりの基本戦略・基本方針

《まちの将来像とまちづくりのテーマ》

安全・快適・健康で住む人も来る人も過ごしやすいまち

～医療・産業・地域の連携による未来につながるまちづくり～

《まちづくりの基本戦略》

- 佐久市の人口は今後も減少傾向が予想され、若者層の流出という課題があります。一方、中心市街地においては現状、人口は維持され少子高齢化の傾向は緩やかです。そのため、少子高齢化の問題が深刻化する前に対応策を実施し、佐久市の維持・発展の原動力とします。
- 佐久市商圏の人口が減少し、地元商店街、大型店とも売上が低迷する中、商圏の吸引率を上げるために、地元商店街と大型店の連携による多様化するニーズへの対応、周辺地域からの公共交通の利便性向上により、商業集積地としての魅力向上を目指します。
- 若者層の流出抑制、ＵＩＪターンを含めた定住促進を図るため、就業の場の確保や本市の特徴を生かした産業の育成による経済の活性化を目指します。
- 「健康長寿のまち」という視点のもと、超高齢社会において、高齢者が安心して生活することができ、子育て世代も安心して子育てできる取組を行い、高齢者から子どもまで健康で生活できる環境をつくります。
- 市の観光資源を充実させ、積極的なＰＲ活動を行うことで、観光産業を活性化させ、佐久市への長期滞在、リピート率を向上させます。

まちづくりの基本方針

基本方針①

健康長寿のまちを支える特徴ある産業・観光振興の推進

- 佐久市は、浅間総合病院及び佐久総合病院が地域の住民とともに育んできた地域医療の歴史や地域と一体となった保健予防活動等による「健康長寿のまち」としての強みがあり、長野県の中でも平均寿命が長い市となっています。
- 少子高齢化が進行し、人口減少が予想される社会において、健康産業は新たなマーケットとして注目されています。
- 他都市にはない「健康長寿のまち」として培った、地域と一体となった地域医療の取組という強みを生かした特徴ある産業の育成と活性化を図ります。
- 中心市街地内外の地域資源や魅力スポットを、観光の視点から活用することで、佐久市の魅力、集客力の向上につなげるとともに、市内の各地域はもとより、周辺都市との連携のもと、交流人口の創出と広域的な観光まちづくりの体制を構築します。

基本方針②

誰もが健康で生き生きと暮らせて、安心して子育てのしやすいまちづくりの推進

- 中心市街地を魅力的なまちとして維持・発展させていくためには、現状の人口の社会増を維持するとともに、今後、増加する高齢人口・自然減に対応する必要があります。
- 特に、若い世代が進学等により首都圏や佐久市外の県内に転居する傾向は今後も続く想定され、卒業後の就業の場の選択において、住み慣れた地元を選び、暮らし続けられるようなライフステージが描ける環境づくりが求められます。
- 地域内の活力を保つためにも各年代層がバランスよく構成された社会を形成することが望まれています。若い世代に対しては、雇用、結婚・出産、定住、教育等を支援することで中心市街地への定住を促し、高齢者に対しては、地域のコミュニティ活動を支える存在として、自身の健康の維持や地域活動への参加などの生きがいづくりを支援します。

基本方針③

地域コミュニティを支える魅力ある商業の振興と地域公共交通の充実

- 中心市街地の商業地は、中山道の宿場町としての歴史を有し、地域住民の交流の場、買い物の場として形成された商店街と、長野新幹線（現 北陸新幹線）の開通に伴い整備された佐久平駅周辺に立地する大型店で構成されています。
- 少子高齢化の進行や消費者ニーズの多様化、地元滞留率や商圈人口の減少などにより、中心市街地の年間小売販売額も減少傾向にあることから、中心市街地全体の商業環境における魅力づくりが求められます。
- 中心市街地の地域に根付いた商店街と、佐久平駅周辺の大型店との連携による人を回遊させる仕組みづくりなどにより、魅力ある商業集積地を築くとともに、様々なニーズに応える販促サービスを提供するために商店街と大型店の連携による相乗効果、アクセスの向上、そして次代を担う商業の担い手育成を図ります。

基本方針①

健康長寿のまちを支える特徴ある産業・観光振興の推進

- 佐久市には、浅間総合病院及び佐久総合病院が地域の住民とともに育んできた地域医療の歴史や地域と一体となった保健予防活動等による「健康長寿のまち」としての強みがあります。この強みを生かした特徴ある産業育成と活性化を目指します。
- 中心市街地内外の地域資源や魅力スポットを、観光の視点から活用することで、佐久市の魅力、集客力の向上につなげます。

1 健康長寿を生かした産業の活性化

- 人口減少を食い止め、都市の特徴を生かして選ばれるまちを維持していくことが地方都市には求められています。佐久市は住民とともに育んだ地域医療や地域と一体となった保健予防活動などにより「健康長寿のまち」としての強みを持っています。
- 本市では保健医療分野における先進的な取組を有していることから、これらの特徴を生かした関連産業の育成支援が重要です。

(1) 保健医療分野における視察研修の受入拡大と国際展開

- 佐久市の強みである健康長寿を国内外に発信・展開できるブランドとして確立します。また、保健医療分野における海外からの視察研修の受入体制の充実と帰国後のフォローアップ体制の確立により、本市の保健医療福祉システムやヘルスケア関連製品等を世界に広げていきます。

(2) ヘルスケア関連産業*の強化

- ヘルスケア関連産業の集積や新製品・新技術の開発等の支援により、ヘルスケア関連産業の国際競争力の強化と地域産業の活性化を図ります。
- 佐久大学、佐久大学信州短期大学部等との連携により、地域の医療・福祉産業の活性化を図ります。

注) ヘルスケア関連産業とは、医療や福祉、介護分野に関連した様々なサービス産業と、そのようなサービスで使われる医療機器、福祉用具、介護用品、医薬品、健康食品などの製造業を含む産業のこと。

2 既存企業への支援

- 人々が安心して、安定して継続的な生活をするには、働く場の確保、「しごと」の創生が不可欠です。
- 保健医療福祉分野と連携したヘルスケア関連産業の育成とともに、既存企業が活性化し、さらに成長するための支援が求められています。

(1) 新製品・新技術の開発促進

- 産学官連携や企業間連携を支援し、新製品・新技術の開発を促進します。
- 企業の事業拡大の促進と雇用の場を創出するため、製造業等が行う設備投資や企業立地を支援します。

(2) 企業経営や技術面での支援

- 市内企業が抱える課題の解決を支援するため、商工団体等と連携し、産業支援機関を設置します。
- 関係機関と連携し、企業経営、品質管理、人材育成等の様々な分野において、ニーズに応じた研修会の開催や、アドバイザーの派遣など相談体制の充実強化を図ります。
- 市内企業の従業員や内定者のスキルアップのための資格取得や、技能向上のために行う研修会等を支援します。

3 地元農産物等のブランディング

- 佐久市内で生産される農水産物は、米・野菜・果樹等、品目ごとに産地化がされ一定の認知がされています。今後、付加価値の高い農水産物の生産・加工が求められています。
- 中心市街地の集客力を生かし、地元農産物や特産品等の情報を発信や、消費者の意向を把握するテストマーケティングの場の提供、販売者と生産者が連携した取組など、売上増、知名度増につながる取組が重要です。

(1) 地産地消の推進

- 地元農産物や特産品の消費・販売の促進と、交流人口の創出を図るため、地元農産物を使った料理や佐久市産酒米を使った地酒を飲食店等が連携して提供しPRするなど、佐久市の魅力を発信します。

(2) 地域資源を生かした特産品の販売

- 商店街の空き店舗等を活用し、佐久市の地域資源を生かした農産物及びその加工品などの特産品（農作物及びその加工品）販売の場を設けることにより商店街の集客と、地元農産物等の販路拡大を図ります。

4 健康長寿を生かした観光・まちづくり

- 佐久市は、美しい自然や清流等に恵まれ、市内の各地域には中山道の歴史、旧中込学校や五稜郭など歴史にまつわる資源等が多くあります。

中心市街地は、佐久平駅や、近接して佐久インターチェンジ等があり、広域からの来訪者の玄関口であるとともに、市内の各地域をつなぐ交通の要衝です。

- 広域や市内各地域から集客する中心市街地は、市内の観光情報等を効果的に発信できる場であることから、市内外の観光スポット等と連携した情報の発信とともに、中心市街地を起終点とした観光プログラムや様々な健康長寿を生かした体験型プログラムの提供など、交流人口を創出する取組が求められています。

(1) 広域観光の推進

- 中心市街地と市内各地域との連携により、健康長寿を生かした観光プログラムや観光ツールの構築を図ります。
- 佐久地域の市町村や関係団体等と連携し、佐久地域観光戦略会議の仕組みを活用した中山道、小海線、星空などの地域の魅力発信による交流人口の増加策を展開します。
- 佐久地域出身の著名人と連携した誘客等の推進など、人が訪れる仕組みを構築します。
- 中山道の歴史や地域資源等の解説を行う観光ガイドの育成と観光ガイドツアーの商品化を検討します。

(2) 観光情報等の発信

- コミュニティFMラジオ及び佐久ケーブルテレビにより、定期コーナー及びイベントと連動した出張放送の実施など、佐久市の人・街・食・環境のPRや佐久市が取り組む地域活動などを発信します。
- 佐久市の情報をホームページ等で動画配信することにより、国内外へ佐久市の魅力を効果的に発信します。
- 佐久平駅、岩村田駅、岩村田商店街、樋橋地区等を休憩・情報発信スポットとして位置づけ、観光等各種情報の発信を行います。
- 交流人口の創出のため、気軽に健康食やフィットネスに親しめる健康長寿のための体験ができるまちづくりを促進します。

(3) 健康長寿まちづくりを推進するための新法人の立上げ

- 健康長寿を生かしたまちづくりによる移住・定住人口の増加とまちの賑わいを図るため、健康長寿を核としたまちづくりを推進する新法人を立ち上げ、まちづくりを担う人材を確保し、自立した運営を目指します。

[3] 基本方針2に資する主要施策

基本方針②

誰もが健康で生き生きと暮らせて、安心して子育てのしやすいまちづくりの推進

- 中心市街地を魅力的なまちとして維持・発展させていくためには、現状の人口の社会増を維持するとともに、今後、増加する高齢人口・自然減に対応する必要があります。
- 各年代層がバランスよく構成された社会の形成のために、若い世代に対しては、雇用、結婚・出産、定住、教育等を支援し、高齢者に対しては地域を支える存在として、健康の維持や地域活動への参加などの生きがいづくりを支援します。

1 健康長寿を支える地域包括ケア体制※¹の強化

- 中心市街地では佐久市全体と比べると高齢化率は低くなっていますが、着実に超高齢社会に向かっていきます。こうした中で、アンケート調査では「高齢者になっても生きがいを持って暮らせるまち」を健康長寿のまちのイメージとして多くの市民が考えています。
- 介護・医療サービスの充実とともに、高齢者が健康で生きがいを持って暮らすことができる環境づくりが求められています。

(1) 地域包括支援センターの運営強化

- 地域包括支援センターの運営強化を図るとともに、「認知症施策」「在宅医療・介護の連携」「生活支援サービスの体制整備」を推進します。

(2) 高齢者大学・大学院等による仲間づくりと地域活動リーダーの育成

- 元気な高齢者が学び、活躍ができる場を提供する高齢者大学・大学院の活用促進と地域活動のリーダー育成を推進します。
- 公民館活動を充実させ、社会貢献・社会参加による生きがいづくりを促進します。

(3) 高齢者の健康維持・増進

- 高齢者の健康維持、健康寿命※²の延伸とQOL※³向上を進めるためには、「栄養」「運動」が極めて重要な対策の要素となることから、「栄養」「運動」をキーワードに高齢者が楽しみながら健康維持に取り組める環境づくりを促進します。
- 地域の健康管理の担い手として、保健指導員や食生活改善推進員を育成するとともに、地域と一体となった保健予防活動をさらに促進します。
- 空き店舗等を活用した、気軽に立ち寄れる健康相談の実施等を検討します。

注1) 地域包括ケア体制とは、要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制のこと。

注2) 健康寿命とは、心身ともに自立し、健康的に生活できる期間をいう。

注3) QOL (quality of life) とは、人生の質、充実度のことをいう。

2 子育て世帯の定住に向けた子育てサービスの充実

- 中心市街地の人口構成をみると、子育て世代となる 40 歳前後の割合が最も多く居住しています。
- 居住の場として選択され、かつ、住み続ける場であるためには、生計を立てるための就業の場があり、安心して子どもを生み育てていくための環境が整っていることが必要です。

(1) 子育て世帯への支援

- 生後 4 か月までの全乳児とその家族に対する保健師・助産師による訪問指導、乳幼児健康診断の実施、乳幼児の親子に対する体操・学習等の教室開催、子ども疾病対応出前講座の開催などにより、乳幼児が健康で、家族が安心して暮らせる環境整備を進めます。
- 子どもの急病やけがに休日でも対応できるよう、佐久医師会の協力のもとで、浅間総合病院内に設置した休日小児科急病診療センターの円滑な運営と、利用しやすい環境整備に努めます。

(2) 多様なニーズに対応した保育サービスの提供

- 病児・病後児保育等、各種保育サービスを提供するほか、第3子以降の保育料を無料化することにより、子育て世帯が安心して暮らせる環境整備を進めます。

(3) 子育て世帯が交流できるサービス・相談体制の充実

- 子育て世帯が交流し、子育てに関する相談や情報発信を行う場所として、多様なニーズに対応するため、商業施設を利用するなど実施場所の工夫に努めます。
- 地域住民がお互いに支え合い、助け合って暮らせるよう、育児の援助を行いたい方と育児の援助を受けたい方をマッチングする住民相互援助活動を支援します。
- 子育て世帯の安心と子どもたちの安全のため、放課後の児童の居場所を確保し、地域と連携しながら特徴ある運営を図ります。

3 子育て世代の女性が働きやすい環境づくり

- 中心市街地の人口構成をみると、子育て世代となる 40 歳前後の割合が最も多く居住しており、佐久市全体の人口構成と比較しても、この年齢層の割合は高くなっています。中心市街地には新興の住宅地もあり、長土呂地区では世帯数が増加傾向にある一方で、平成 27 年度の世帯人員が約 2.3 人と低くなっています。このことから核家族化が進行しており、共働きの世帯が多いと推測されます。
- 経済的にも安定して子育てができるよう、子育て世帯が共働きしやすい環境づくりなど、総合的な子育て支援の環境を整える必要があります。

(1) 子育て世代の女性に対する就労環境の改善

- 子育て世代の女性に対し、就労に関する悩みや不安の軽減を図るための相談支援の充実、市内企業へのワーク・ライフ・バランスの啓発などにより、安心して働ける環境整備を促進します。

(2) 子育て世代の女性が起業できる環境づくり

- 子育て中の母親等の自宅等での起業を支援するなど、子どもの身近で働くことができる環境づくりに努めます。

4 若い世代や移住者の雇用の創出

- 佐久市全体及び中心市街地の人口は将来的に減少することが見込まれます。
- 中心市街地の年齢別人口の構成をみると、進学や就職により市外に出ている傾向にあり、20 歳前後の人口割合が低いです。
- 現状では 40 歳代前半の子育て世代の割合が高いですが、現状の傾向が続くと将来的には子育て世代も減少することが予測されています。各年代層がバランスよく構成された社会の形成が望まれることから、若い世代の定住人口の増加が必要です。

(1) U・I・J ターン就職等の促進

- 市外へ進学した学生をはじめとする U・I・J ターン就職を促進するため、インターンシップ実習生の受入れを行った企業及び市内企業へのインターンシップに参加する学生を支援します。
- 関係機関との連携による大学等への市内企業の PR や、首都圏における PR イベントを開催するなど、市内企業における若い世代の人材確保を支援します。
- 地元出身学生の定着を促進するために、佐久市奨学金の償還の一部免除を行います。
- 首都圏等へ進学している佐久市出身の学生等を対象に、佐久市中心市街地をフィールドにしたビジネスコンテストを開催する等、地元での就職・起業のきっかけづくりを促進します。

(2) 雇用の場の確保と人材の育成

- 中心市街地への若い世代の定住を促進するため、情報サービス・コールセンターの事業所などのサテライトオフィス※や、本社機能の移転を行う企業などの誘致を推進します。
- 企業誘致の受皿となる新たな企業立地用地を確保するとともに、佐久市の地理的優位性を発信し積極的な誘致活動を推進します。
- 佐久大学、佐久大学信州短期大学部との連携により、地域の医療・福祉産業を担う人材の育成を図ります。

(3) 移住者の雇用促進

- 中心市街地への移住を促進するには雇用の場の提供が重要になることから、市内企業における移住者の雇用に対する支援や、就職相談窓口の設置など相談体制の強化を図ります。

5 移住者の居住環境整備と移住情報の発信

- 佐久市では将来の人口減少を見込み、定住人口の増加を図るために移住セミナーや首都圏における相談窓口の設置、移住に関連する情報発信等の取組を行っています。
- 今後も移住者への空き家物件をはじめとする移住情報の発信強化や、移住者をはじめ中心市街地の居住者が安心して住み続けることができる居住環境の整備が求められています。

(1) 移住者の居住環境の整備

- 空き家物件の紹介や移住に関する相談体制の強化、移住体験住宅の提供などにより、若い世代をはじめとするあらゆる世代の移住を促進します。

(2) 移住情報の発信

- 佐久市に興味を持ってもらうために、市ホームページや動画による配信をはじめ、首都圏における移住セミナーの開催など、様々な媒体を活用した情報発信を強化します。

(3) 生涯活躍のまち（日本版CCRC）の構築

- 医療・介護環境の充実などの地域資源を生かし、生涯活躍のまち（日本版CCRC）の構築に取り組み、移住者の増加を図ります。

注）サテライトオフィスとは、企業などが運用している本拠地から離れた場所に設けられたオフィスのこと。

6 医療施設・文化施設等の公共公益施設の充実

- 中心市街地には浅間総合病院をはじめ、国・県の行政機関など、各種公共公益施設が集積しています。
- 地域住民等への公共・公益サービスの質を維持するために、医療施設や文化施設等を中心に計画的な施設老朽化への対応、導入設備の更新等を推進する必要があります。

(1) 浅間総合病院の充実

- 地域の中核病院として良質な医療の提供と地域住民の医療ニーズに対応するため、計画的な施設・設備整備を進めます。

(2) 高齢化に対応した病院施設整備の促進

- 市内の医療機関が高齢化の進行を踏まえ実施する医療療養病床[※]等施設整備に対する支援により、高齢者に対する医療環境の充実を図ります。

(3) 子ども未来館の運営充実

- 科学の体験施設として常設科学展示、プラネタリウム、科学体験工房等を備える子ども未来館のリニューアル及び運営の充実を図ります。

(4) 佐久平交流センターの利便性向上

- 佐久平交流センターと第二駐車場間の往来をしやすいするため、濁川を渡る連絡歩道橋の整備を進めます。

(5) 岩村田小学校の改築

- 安全で安心して学ぶ環境を維持するために、老朽化している岩村田小学校の改築を推進します。

注) 医療療養病床とは、長期にわたり療養を必要とする患者のための病床のこと。

7 新たな都市基盤整備

- 佐久平駅の南側に位置する樋橋地区は、樋橋地区土地区画整理準備組合による都市基盤整備が進められ、佐久市の新たな玄関口として期待される地域です。
- この地区の都市基盤整備においては、樋橋地区土地区画整理準備組合、市、事業者などが連携し、中心市街地の一部を形成し、多様な人、物、情報が流れをつくり、佐久市全域の活性化を生み出すまちづくりを進める必要があります。

(1) 樋橋地区における新たな都市基盤整備

- 佐久平駅南側の樋橋地区では新たな都市基盤整備のため、樋橋地区土地区画整理準備組合に対して支援を行います。
- 都市計画道路や街区道路など都市施設の計画的な整備を推進します。
- ゆとりがあり、歩きたくなる道路環境や、緑豊かな空間形成など、良好な市街地環境の形成を図ります。

基本方針③

地域コミュニティを支える魅力ある商業の振興と地域公共交通の充実

- 中心市街地の地域に根付いた商店街と、佐久平駅周辺の大型店との連携による人を回遊させる仕組みづくりなどにより、魅力ある商業集積地を築く必要があります。
- 様々なニーズに応える販促サービスを提供するために商店街と大型店の連携による相乗効果、アクセスの向上、そして次代を担う商業の担い手育成の場を確保します。

1 商店街等における起業支援と地域産業との連携

- 中心市街地の商店街は地域密着型の商店街として空き店舗活用や子育て支援、若い事業者の商いの場を提供しています。
- 商店街における事業者の新陳代謝を促進するために、商店街において新規開業希望者への支援が求められています。また、商店街は地域の交流の場でもあることから、地域住民の健康長寿に資する事業の情報発信や体験・販売の場としての役割を担うなど、機能の充実が重要です。

(1) 健康長寿関連器具のアンテナショップ

- 中心市街地の空き店舗等を活用した、健康長寿に関連した医療・福祉器具を販売するアンテナショップの開設など、新たな取組を支援します。

(2) 新規開業希望者の支援

- 中心市街地の商店街等における新規開業希望者を支援する創業塾等の開催を促進します。

(3) 商店街の空き店舗を活用した起業等への支援

- 空き店舗等を利用した開業の際の改修費や賃借料に対する支援を行います。
- 商店街の後継者不足の対策として、事業承継への取組を促進します。

2 商店街における国際化対応

- 保健医療や介護の分野の強化においては、ヘルスケア関連産業の育成や誘致とともに、将来的に労働力の減少が見込まれることを踏まえ、外国人人材の労働力も考えられます。
- 外国人移住者が地域にとけ込み安心して日常生活ができる環境を今から整える必要があります。また、中心市街地における交流の場である商店街において、外国人移住者に対する日常生活をサポートする取組、また海外からの来訪者をもてなす取組が求められています。

(1) 外国人移住者・来訪者へのサポート

- 外国人移住者の日常生活をサポートする場の整備や、相談・サポートするコンシェルジュ※の育成を促進するとともに、海外からの来訪者をもてなす環境整備を促進します。
- 海外研修で来訪した研修生の滞在場所の確保・研修の場の提供を促進します。
- 日本国内における外国人観光客が増えており、新たな顧客ターゲットとなる外国人観光客に対応した飲食店の受入環境の整備を促進します。

3 大型店と商店街の連携及び商店街の環境整備による集客増

- 中心市街地には商店街とともに大型店が集積しており、全国でも先駆けて、大型店と商店街が連携して電子カードを導入しています。一方、少子高齢化の進行や消費者ニーズの多様化、地元滞留率や商圈人口の減少などに伴い、中心市街地の年間小売販売額は減少傾向にあり、今後もこの傾向は続くことが予測されます。中心市街地全体の魅力を高めるためには、大型店と商店街が連携し集客及び販売力を高める取組が必要です。
- 商店街の店舗は老朽化が進んでいるとともに、現在の消費者ニーズに対応した駐車場の確保等が困難な状況にあり、老朽化が進む商店街の店舗等の建て替えなどの改善も求められています。

(1) SNS等の活用による商店街や佐久地域の情報発信

- 日常生活の中で多くの方が利用しているSNS※²等の活用により、商店街や大型店、佐久地域の情報発信を促進します。

注1) コンシェルジュとは、特定の分野や地域の情報などを紹介・案内する人のこと。

注2) SNSとは、人と人とのつながりを促進・支援するウェブサイトやネットサービスのこと。

（２）中心市街地におけるイベントをはじめとする販促活動による集客力の強化

- 大型店や商店街のイベント時の送迎バスの運行について検討します。
- 集客につながるイベントの開催や大型店と商店街が連携した販促活動等、まちおこしや商業活性化のための事業を支援します。
- 中高年者を含む近隣の住民等を商店街に呼び込む仕掛けとして、商店街における休憩と情報発信の場となるサロンの設置や、サロンの利用を電子カードのポイント還元する仕組みなど新たな取組を検討します。
- 地域で暮らす子育て家庭が、地域の中で仲間と楽しく子育てができるサロンの設置・運営を検討します。

（３）商店街における老朽建築物の建て替え

- 老朽化が進む商店街の店舗等において、店舗とともに移住希望者への住宅を整備する等のための建て替えを促進し、土地の有効利用を図りつつ、中心市街地内の定住人口と買い物客の増加につなげます。

4 地域公共交通の利便性向上

- 中心市街地は高速交通の要衝として首都圏等からの玄関口になっています。
- 中心市街地内及び市内の各地域を結ぶ地域交通の利用者が横ばい傾向の一方で、超高齢社会の到来に伴い、自動車を運転できない高齢者等の交通不便者が増えることが予測されます。
- 地域住民及び来訪者のニーズを把握し、周辺地域から中心市街地への買い物や通院の際の利便性の確保及び人の回遊を促進するための地域公共交通の見直しが求められています。

（１）まちづくりと連携した地域公共交通体系の構築

- 中心市街地を含む拠点地区間の移動は、佐久市都市計画マスタープランに掲げる、都市連携軸（南北軸）、中山道交流軸（東西軸）を基本とし、この連携軸に沿った幹線交通の整備を図ります。
- 周辺地域から、中心市街地までのアクセスの確保や、周辺地域からの通院や買い物などの日常に必須な移動が確保されるように、効率的で持続可能な交通体系を整備します。
- 現在、公共交通を利用している人や、交通手段を持たない人などの交通不便者の買い物や通院など日常生活における移動手段の確保を最優先に公共交通網を構築します。

[5] 今後の取組に関して

健康長寿まちづくり計画は、将来的な人口減少と地域経済の縮小に対応するため、集客を図る重要な場である佐久平駅周辺及び近接する岩村田周辺を中心市街地として位置づけ、本市の特徴でもある健康長寿を生かしたまちづくりを進め、区域外の全市へ波及させていくことを目的としています。

本計画で位置付けた主要施策を、中心市街地が牽引役として重点的に取り組むとともに、市内全域に効果が波及するための仕組みづくりとして、各施策の実施においては中心市街地の区域外との連携も踏まえた事業内容の検討及び状況に応じた見直しを行っていきます。

[6] 進捗管理における管理指標

本計画の進捗状況や達成状況を測るための指標として、以下のとおり達成目標を設定します。

■本計画の進捗管理における管理指標

<基本方針1に関連する管理指標>

指標名	基準値	目標値
中心市街地における事業所数増	13件増 (H21～26 累計) 2.6件/年	25件増 (H29～33 累計) 5件/年

<基本方針2に関連する管理指標>

指標名	基準値	目標値
中心市街地の人口の社会増	184人 (H23～27 累計) 36.8人/年	270人 (H29～33 累計) 54人/年

<基本方針3に関連する管理指標>

指標名	基準値	目標値
中心市街地における 空き店舗を活用した創業件数	7件 (H26～28 累計) 2.3件/年	20件 (H29～33 累計) 4件/年

4 資料編

〔1〕佐久市健康長寿まちづくり協議会設置要領

佐久市健康長寿まちづくり協議会設置要領

(設置)

第1条 佐久健康長寿プロジェクト推進会議（以下「推進会議」という。）と連携し、健康長寿の観点を取り入れた佐久市の中心市街地におけるまちづくり（以下「中心市街地の活性化」という。）について協議するため、佐久市健康長寿まちづくり協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議事項等)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 佐久市健康長寿まちづくり計画（以下「まちづくり計画」という。）の策定に関すること。
- (2) 中心市街地の活性化に係る総合調整に関すること。
- (3) 中心市街地の活性化に係る事業に関すること。
- (4) 推進会議との連絡調整に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、中心市街地の活性化に関し協議が必要と認めること。

(組織)

第3条 協議会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、中心市街地の活性化に関する法律第15条第1項又は第4項の規定に準ずる者で、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 識見を有する者
- (2) 関係団体の代表者又は職員
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者

(オブザーバー)

第4条 会長は、専門的知識等を有し中立的な立場の者をオブザーバーとして、協議会へ出席させることができる。

- 2 オブザーバーは、第2条に規定する協議事項について、専門的見地から必要な助言を行う。
- 3 その他、必要な事項は会長が別に定める。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員等の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員等の再任は妨げない。

(会長及び副会長)

第6条 協議会に、会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

4 会長は、推進会議の委員として会議等へ出席し、協議会の協議事項等について推進会議と連携を図る。

(会議)

第7条 協議会の会議（以下「会議」という。）は会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の2分の1以上の者が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者を出席させ、意見を求めることができる。

(事務局)

第8条 協議会の庶務は、佐久市経済部商工振興課において処理する。

(その他)

第9条 この要領に定めるもののほか、協議会の運営等に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要領は、平成28年8月30日から施行する。

〔2〕佐久市健康長寿まちづくり協議会委員等名簿

佐久市健康長寿まちづくり協議会委員等名簿

(敬称略・順不同)

役職	氏 名	所属団体 役職	
委 員	大池 明	佐久市区長会岩村田地区区長会長	
委 員	細谷 たき子	学校法人佐久学園佐久大学教授	
委 員	阿部 眞一	佐久商工会議所副会頭	会長
委 員	柳澤 悦雄	臼田町商工会会長	
委 員	春原 晃夫	浅科商工会会長	
委 員	松井 次男	佐久市望月商工会会長	
委 員	中澤 繁夫	岩村田連合商店会副会長	
委 員	浅沼 桂二	岩村田料飲組合組合長	
委 員	小林 一市	佐久市農業委員会会長代理	
委 員	飯塚 由美子	佐久浅間農業協同組合営農指導部食の事業開発課課長	
委 員	柳沢 一明	佐久市金融団 代表	副会長
委 員	柳澤 利広	東日本旅客鉄道株式会社佐久平駅駅長	
委 員	田原 實夫	佐久市観光協会副会長	
委 員	三浦 裕	佐久地域公共交通確保維持改善協議会委員	
委 員	小林 清隆	佐久市PTA連合会浅間中学校PTA会長	
委 員	桜井 和則	佐久市経済部長	

オブザーバー	独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部地域振興部地域振興課
--------	--------------------------------

[3] 佐久市健康長寿まちづくり協議会開催概要

回数	開催年月日	開催場所	主な審議事項
第1回	平成28年8月30日	佐久市役所 議会棟全員協議会室	・委嘱書の交付 ・佐久市健康長寿まちづくり協議会の設置について ・会長・副会長の選任 ・会長・副会長のあいさつ ・委員等の自己紹介 ・佐久市健康長寿まちづくり協議会の位置付けについて ・今後のスケジュールについて ・市民アンケートの内容について ・意見交換 ・中小機構によるサポートについて
第2回	平成28年10月3日	佐久消防署 3階講堂	・ワークショップ - 検討事項1「テーマ別の現状評価」 - 検討事項2「現状評価を踏まえた課題と対応方向の整理」 - 意見発表 - まとめ
第3回	平成28年11月14日	佐久市役所 南棟3階会議室	・市民アンケート調査の実施状況(報告)及び移住意識調査用アンケート調査の実施内容の確認 ・ワークショップ(第2回協議会)のまとめ ・上位関連計画におけるまちづくりの方向性 ・中心市街地の現状分析 ・既往アンケートにみる住民のニーズ ・中心市街地の課題・基本戦略・将来像・基本方針等の骨子案
第4回	平成28年11月30日	佐久消防署 3階講堂	・市民アンケートの中間報告 ・骨子案における中心市街地の将来像及びまちづくりのテーマ ・基本方針別の想定事業の紹介 ・中心市街地活性化基本計画に基づく区域設定

第5回	平成28年12月16日	佐久消防署 3階講堂	・佐久市健康長寿まちづくり計画(素案)の確認 ・中心市街地活性化制度における各種組織に関して
第6回	平成29年1月25日	佐久平交流センター 2階第3会議室	・佐久市健康長寿まちづくり計画(案)について ・パブリックコメントについて
第7回	平成29年3月15日	佐久消防署 3階講堂	・パブリックコメントの結果について ・佐久市健康長寿まちづくり計画の承認

〔4〕各種調査概要

○佐久市健康長寿まちづくり計画策定に向けた市民意識調査について

実施時期	平成28年10月末郵送、11月中旬郵送回収
実施対象	市内に居住する満20歳以上の市民1,500人 中心市街地内（岩村田地区、長土呂地区）から計750人を無作為抽出 中心市街地外（上記以外の市内全地区）から計750人を無作為抽出
回収数	610人（回収率40.7%）

○佐久市健康長寿まちづくり計画策定に向けた移住意識調査について

実施時期	平成29年12月
実施対象	市内への移住を検討している県外にお住まいの方 ・佐久ライフセミナーの出席者 ・佐久地域定住自立圏合同移住相談会の出席者 ・佐久市空き家バンクの利用登録者
調査数	22人

佐久市健康長寿まちづくり計画 策定に向けた市民意識調査

アンケートへのご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃より市政運営に対し、ご理解・ご協力をいただき、御礼を申し上げます。

さて、佐久市では、誰もが健康で生き生きと暮らせる世界最高健康都市の構築を目指して各種事業に取り組んできました。さらに本年度より、佐久市の強みである「健康長寿」をブランドとして確立し、「健康長寿」を生かしたまちづくりや産業振興に関する計画の策定などを行う「ジャパンブランド健康長寿推進事業」に取り組んでいます。

今回のアンケートは、「ジャパンブランド健康長寿推進事業」のまちづくりの分野における、「岩村田商店街・樋橋地区を含む佐久平駅周辺の区域」を対象とした健康長寿まちづくり計画（中心市街地活性化基本計画）を策定するための重要な基礎資料となります。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただきました内容は、調査の目的以外に利用することは一切ありません。また、この調査により得ました情報及びご意見につきましては、秘密を厳守し、プライバシーの保護に万全を尽くします。

平成28年11月 佐久市長 柳田 清二

☆アンケートの対象者について

このアンケートは、住民基本台帳から無作為に抽出した満20歳以上の市民の方
1,500人をお願いしています。

ご記入に際しては、お手数ですが宛名のご本人様がお答えください。

☆アンケート票回収についてのお願い

ご記入いただきましたアンケート票は、お手数ですが同封の返信用封筒に入れて、
平成28年11月15日（火）までに お近くのポストに投函してください。

（切手不要）

※このアンケートでご不明の点などがございましたら、下記までお問い合わせください。

☆このアンケートにおける中心市街地の区域については、裏面の地図をご覧ください。

【問い合わせ先】担当：佐久市商工振興課商工業支援係

電話：0267-62-3265（直通）

中心市街地の位置及び区域

佐久市には、各地域に商店街を中心に市街地が形成されていますが、今回策定する健康長寿まちづくり計画（中心市街地活性化基本計画）における「中心市街地」の区域は下図（点線）に示されている、「岩村田商店街・樋橋地区を含む佐久平駅周辺を対象とする区域」を想定しております。

したがって、本アンケートでは、この地区に関する内容についてお答えください。



■アンケート記入票

1 あなたご自身の日常生活・行動についてお聞きします。

問1-1 中心市街地に、どれくらいの頻度で行きますか。中心市街地にお住まいの方はどれくらいの頻度で、区域内の施設を利用していますか。（1つだけに○印）

- | | |
|------------------|----------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に3～4回 |
| 3 週に1～2回 | 4 月に1～2回 |
| 5 ほとんど行かない ⇒ 問2へ | |

問1-1で「1」から「4」を回答した方にお聞きします。

問1-2 中心市街地に行く又は利用する主な目的は、以下のどれですか。（1つだけに○印）

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1 通勤、通学 | 2 買い物 |
| 3 飲食 | 4 官公庁 |
| 5 銀行、郵便局など | 6 通院・お見舞い |
| 7 習い事など文化・教養 | 8 レジャー・娯楽 |
| 9 イベント・催物など | 10 散歩 |
| 11 その他（具体的に _____） | |

問1-3 中心市街地に行くために最も良く利用する交通機関は、以下のどれですか。（1つだけに○印）

- | | |
|-------------------|------------|
| 1 鉄道 | 2 バス |
| 3 タクシー | 4 家族等の車に同乗 |
| 5 自分で運転する車、バイク | 6 徒歩・自転車 |
| 7 その他（具体的に _____） | |

問1-4 中心市街地に来たときは、買い物などの利用目的のためにどれくらいの時間滞在しますか。（1つだけに○印）

- | | |
|---------|---------|
| 1 1時間未満 | 2 1～2時間 |
| 3 3～4時間 | 4 5時間以上 |

2 買物、娯楽等の場所についてお聞きします。

問2 以下の①から⑥までの項目について、主にどの場所を買い物などで利用しますか。
(項目ごとに2つの場所に○印)

場所		項目 (記入例 (項目ごとに2 つの場所に○を してください))	①食料品・ 日用雑貨 等の買い物	②衣類、 靴・装飾品 等の買い物	③飲食、喫茶	④習い事、学習 塾、カルチャー スクール、フィ ットネス等	⑤娯楽・ レジャー等	⑥ウインドウ ショッピング、 散歩等
中小商店	中心市街地 【岩村田駅周辺、 岩村田商店街、 佐久平駅周辺】	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	その他佐久市内	上記以外の 浅間・東地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		中込・野沢地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		白田地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		浅科地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		望月地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	市外	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
大型店※	中心市街地	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	その他佐久市内	上記以外の 浅間・東地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		中込・野沢地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		白田地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		浅科地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		望月地域	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	市外	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
通販、宅配、 ネットショッピング		☐	☐	☐	☐	☐	☐	
自分ではあまり買い物、消 費活動はしない		☐	☐	☐	☐	☐	☐	

※佐久市内の主な大型店

スーパー：ツルヤ、西友、イオンモール、ベイシア、マツヤ、デリシア、ナナーズ

衣料品：ファッションセンターしまむら、ジーユー、サンキ

ホームセンター：カインズホーム、ケーヨーデーツー、ビバホーム

家電：ヤマダ電機、ケーズデンキ

その他：ゼビオ、カワチ薬品、トイザらス、ニトリ

3 中心市街地（岩村田・佐久平駅周辺）に対するあなたの印象についてお聞きします。

問3-1 現在の中心市街地は、5年前に比べてどうなったと感じますか。（1つだけに○印）

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 とても活気が出てきた | 2 少し活気が出てきた |
| 3 変わらない | 4 少し活気がなくなった |
| 5 とても活気がなくなった | 6 わからない |

問3-2 現在の中心市街地の状況について、どのような印象をお持ちですか。下記①から⑳までの項目ごとに、あなたの印象に近いものを1つだけ選んで番号に○印をつけてください。特にそれ以外の印象をお持ちの場合は「㉑その他」の（ ）内に記入してください。

項目	思う	やや思う	どちらでもない	思わないに	思わない
①公共施設（役所窓口など）や金融機関などが充実している	1	2	3	4	5
②集会所や公民館など人が多く集まり交流する場所が充実している	1	2	3	4	5
③総合病院や個人病院など医療が充実している	1	2	3	4	5
④福祉サービス（介護施設、デイケア等）が充実している	1	2	3	4	5
⑤文化施設や、習い事・カルチャースクールなどの生涯学習施設が充実している	1	2	3	4	5
⑥保育園や幼稚園などの子育て支援施設が充実している	1	2	3	4	5
⑦学校や学習塾などの教育施設が充実している	1	2	3	4	5
⑧宿泊施設が充実している	1	2	3	4	5
⑨魅力的な商品・サービスを提供する店舗が充実している	1	2	3	4	5
⑩食料品や日用品など日常生活に必要なものが買いやすい	1	2	3	4	5
⑪娯楽やレジャーなど遊ぶ場所が充実している	1	2	3	4	5
⑫気軽に運動できる場所が充実している	1	2	3	4	5
⑬生活するのに便利で、住んでみたい（住み続けたい）	1	2	3	4	5
⑭仕事・アルバイトなど働く場所が充実している	1	2	3	4	5
⑮治安が良く、安全に暮らせる、過ごせる環境である	1	2	3	4	5
⑯飲食店が多く、外食しやすい	1	2	3	4	5
⑰祭りやイベント、催事などが盛んである	1	2	3	4	5
⑱公共交通機関が利用しやすい	1	2	3	4	5
⑲渋滞や駐車場不足がなく自動車で行きやすい	1	2	3	4	5
⑳快適に歩ける（歩きやすい、歩いて楽しい、休める場所があるなど）	1	2	3	4	5
㉑その他（ ）					

4 中心市街地(岩村田・佐久平駅周辺)への居住についてお聞きします。

問4-1 中心市街地への居住意向として、以下のどれに当てはまりますか。(1つだけに○印)

- 1 現在、中心市街地に住んでおり、今後も住み続ける予定である
- 2 現在、中心市街地に住んでいるが、すぐにでも、中心市街地の外へ移りたい
- 3 現在、中心市街地に住んでいるが、将来は、中心市街地の外へ移りたい
- 4 現在、中心市街地に住んでいないが、すぐにでも、中心市街地に移りたい
- 5 現在、中心市街地に住んでいないが、将来は、中心市街地に移りたい
- 6 現在、中心市街地に住んでいないし、将来も、中心市街地に住みたいとは思わない
- 7 わからない

問4-2 中心市街地に居住する人口が増えるために重要なことは、以下のどれに当てはまりますか。(3つまでに○印)

- 1 宅地が安価であること
- 2 家賃や価格の安いアパートやマンションがあること
- 3 食料品や日用品を扱う商店や銀行など日常生活に必要な施設がそろっていること
- 4 充実したサービスや豊富な品ぞろえの魅力的な商業施設が集積していること
- 5 公共交通機関が利用しやすいこと
- 6 病院や福祉施設などが充実していて利用しやすいこと
- 7 治安の良い環境が整っていること
- 8 静かな居住環境が整っていること
- 9 美しい街並みや景観が整っていること
- 10 職場や学校などが近いこと
- 11 保育園や幼稚園などが近いこと
- 12 祭りやイベントなどが開催され、にぎやかであること
- 13 その他 ()

5 中心市街地(岩村田・佐久平駅周辺)の望ましい将来像についてお聞きします。

問5-1 中心市街地が目指すべきまちの望ましい将来像(あるべき姿)は、以下のどれに当てはまりますか。

(1つだけに○印)

- 1 日常生活が便利で、暮らしやすいまち
- 2 買い物や飲食を楽しむことができるまち
- 3 学生や若者が集い、活動する活気のあるまち
- 4 県内外の人・もの・情報が交流する拠点となるまち
- 5 安心して子育てができる環境や施設が充実したまち
- 6 高齢者にとって過ごしやすい、福祉・介護が充実したまち
- 7 仕事・アルバイトなど働く場所が充実したまち
- 8 新しいビジネスや産業が生まれる活力のあるまち
- 9 道路や駐車場が整備されており、自動車で利用しやすいまち
- 10 中心市街地から他の市街地へ公共交通機関で移動しやすいまち
- 11 歩いて楽しい歩行者中心のまち
- 12 環境に配慮した、人と自然が共生するまち
- 13 芸術や文化活動が盛んなまち
- 14 年間を通してイベントやお祭りがあるにぎわいのあるまち
- 15 佐久にある歴史的・文化的資源を生かしたまち
- 16 その他 ()

問5-2 今後、中心市街地が目指すべきまちの望ましい将来像（あるべき姿）を実現するために重要だと思われる事業や取組は何ですか。下記の①から②までの項目ごとに、お考えが近いもの1つだけ選んで番号に○をつけてください。それ以外にも重要だと思われることがあれば「②その他」の（ ）内に記入してください。

項 目	思 う	やや 思 う	ど ち ら で も な い	思 わ ん な い	思 わ な い
①地元の商業・サービス店舗の魅力向上	1	2	3	4	5
②買い物や飲食・レジャーが楽しめる施設の充実	1	2	3	4	5
③広域からの集客が可能なコンベンション施設（会議や大会を行う施設）や宿泊施設の整備	1	2	3	4	5
④若者・単身世帯向けの定住促進の住宅の整備	1	2	3	4	5
⑤シニア向けマンションなど高齢者向けの定住施設の整備	1	2	3	4	5
⑥大学や専門学校の誘致	1	2	3	4	5
⑦保育園・幼稚園等の整備と子育て支援の充実	1	2	3	4	5
⑧介護・医療サービスの充実	1	2	3	4	5
⑨企業・オフィスの誘致など働く場所の創出	1	2	3	4	5
⑩起業・創業の支援の充実	1	2	3	4	5
⑪既存商店街の再開発	1	2	3	4	5
⑫商業等事業者の後継者の育成	1	2	3	4	5
⑬道路の整備など自動車による中心市街地へのアクセス向上	1	2	3	4	5
⑭公共交通機関の利便性の向上	1	2	3	4	5
⑮歩道や自転車道の整備	1	2	3	4	5
⑯定期的なまちなかイベント（祭りや市場）の開催	1	2	3	4	5
⑰芸術・文化に触れる施設や機会の充実	1	2	3	4	5
⑱生涯学習・趣味・ボランティアなどによる世代間交流	1	2	3	4	5
⑲公園やスポーツ施設を活用した健康づくりイベントの開催	1	2	3	4	5
⑳佐久市出身の著名人による市のPR活動の促進	1	2	3	4	5
㉑まちづくりを担当する人材の育成	1	2	3	4	5
㉒周辺都市への情報発信	1	2	3	4	5
㉓その他（ ）					

6 健康長寿を生かしたまちづくりについてお聞きします。

問6 あなたにとって「健康長寿を生かしたまち」とは、どのようなイメージですか。下記の①から⑰までの項目ごとに、お考えが近いもの1つだけ選んで番号に○をつけてください。
(1つだけに○印) 特にそれ以外のイメージをお持ちの場合は「⑰その他」の()内に記入してください。

項 目	思う	やや思う	どちらでもない	そんなに思わない	思わない
① 日常の病気やケガを相談できるかかりつけ医がいるまち	1	2	3	4	5
② 専門的で高度な医療を受けることができるまち	1	2	3	4	5
③ 高齢者になってもいきがいをもって暮らせるまち	1	2	3	4	5
④ 多世代がふれあい・交流するまち	1	2	3	4	5
⑤ 子育てがしやすい環境が整っているまち	1	2	3	4	5
⑥ 地域活動やボランティア活動が盛んなまち	1	2	3	4	5
⑦ 障がい者や社会的弱者の自立支援が充実したまち	1	2	3	4	5
⑧ 気軽に体を動かす場所や機会があるまち	1	2	3	4	5
⑨ スポーツが盛んなまち	1	2	3	4	5
⑩ 健康体操などを行うイベントが盛んなまち	1	2	3	4	5
⑪ 徒歩や自転車で日常の生活がしやすいまち	1	2	3	4	5
⑫ 郷土料理の教室などの食育が盛んなまち	1	2	3	4	5
⑬ 健康を気遣ったメニューが豊富なレストランが多いまち	1	2	3	4	5
⑭ ヘルスケア関連産業が盛んなまち	1	2	3	4	5
⑮ 医療や介護について学ぶ学生が多いまち	1	2	3	4	5
⑯ 平均寿命が日本一のまち	1	2	3	4	5
⑰ 国内外から健康長寿についての取組を視察に来るまち	1	2	3	4	5
⑰ その他 ()					

7 あなた（回答者）ご自身についてお聞きします。

次の①から⑤までの項目ごとに、それぞれあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。			
①性 別	1 男性	2 女性	
②年 齢	1 20歳未満	2 20～29歳	3 30～39歳
	4 40～49歳	5 50～64歳	6 65歳以上
③家族構成	1 一人暮らし	2 夫婦のみ	
	3 親と子ども	4 二世帯（親世帯＋子世帯）	
	5 三世帯（親世帯＋子世帯＋孫世帯）		
	6 その他（具体的に ）		
④居住地区	1 岩村田地区	2 長土呂地区	
	3 浅間・東地域（岩村田、長土呂を除く）		
	4 中込・野沢地域	5 白田地域	
	6 望月地域	7 浅科地域	
⑤居住年数	1 5年未満	2 5年以上10年未満	
	3 10年以上20年未満	4 20年以上30年未満	
	5 30年以上	6 生まれた時から	

8 最後に、中心市街地（岩村田・佐久平駅周辺）のまちづくり全般についてご意見やご提案がございましたら、ご自由にご記入ください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

※この調査票は同封の返信用封筒にて、平成28年11月15日(火)までにポストに投函してください。

■佐久市健康長寿まちづくり計画（中心市街地活性化基本計画）
策定に向けた移住意識調査■

この度は佐久地域定住自立圏合同移住相談会にご出席していただき、ありがとうございました。
今回のアンケートは、県外にお住まいの皆さまの佐久市への移住の意向を把握し、今後のまちづくりに関する事業や施策を検討する基礎データの収集を目的としています。アンケートへの回答内容及び結果につきましては調査の目的以外には利用することは一切ありません。
つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

以下の該当するものに○をしてください。

問1 佐久市への移住意向として、以下のどれに当てはまりますか？（1つだけに○印）

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 すぐにでも、佐久市に移りたい | 2 将来は、佐久市に移りたい |
| 3 どちらともいえない | 4 今のところ、佐久市への移住は考えていない |

問2 佐久市の具体的にどの地域への移住を考えていますか、または興味がありますか？
（3つまでに○印）

- 1 浅間・東地域…北部に位置する市の中核地域が浅間・東地域です。その中の中心市街地には、北陸（中心市街地内）新幹線佐久平駅や小海線岩村田駅があります。また佐久平駅周辺には大型商業施設が複数立地し、その東に隣接して歴史ある岩村田商店街があります。
- 2 浅間・東地域…浅間・東地域の中心市街地以外には、図書館、美術館などの行政サービス施設のほ（中心市街地以外）か、佐久大学や高校などの文教施設があります。また、上信越自動車道佐久IC、中部横断自動車道佐久北IC、佐久中佐都ICへのアクセスも便利です。
- 3 中込・野沢地域…小海線中込駅前に多くの商店・飲食店が集積した中込商店街、観光地として有名な「びんころ地蔵」や歴史ある寺社仏閣のある野沢商店街があります。また、中込地域には市役所、消防署、佐久総合病院佐久医療センターなどの行政サービス施設等があります。中部横断自動車道佐久南ICへのアクセスが便利です。
- 4 白田地域…市の南部の拠点であり、小海線白田駅と佐久総合病院本院を中心に市街地が形成されています。現在、住民と佐久総合病院等との協働による安全・安心でいきいき暮らせるまちづくりを推進しています。平成29年度には、中部横断自動車道の（仮称）白田ICが開通する予定です。
- 5 浅科地域…中山道沿いに古い街並み残り、五郎兵衛米を育む肥沃な水田など、美しい田園風景が広がる地域です。
- 6 望月地域…中山道望月宿を中心に市街地が形成され、これに続く三つの沢沿いに集落が連なっています。宿場町や石仏などの歴史資源、温泉やゴルフ場などの観光資源と豊かな自然に恵まれています。
- 7 その他…（具体的に



問3 佐久市に興味を持ったきっかけは何ですか？		
1 首都圏から近い	2 交通アクセスが良い	3 医療が充実している
4 自然が多い	5 家族や知り合いがいる	6 地域・文化に興味がある
7 災害が少ない	8 自治体の支援が手厚い	
9 その他（具体的に _____）		

問4 佐久市に移住するにあたり重要なことは、以下のどれに当てはまりますか。 （3つまでに○印）	
1 宅地が安価であること 2 家賃や価格の安いアパートやマンション・中古物件があること 3 食料品・日用品を扱う商店や銀行など日常生活に必要な施設がそろっていること 4 充実したサービスや豊富な品ぞろえの魅力的な商業施設が集積していること 5 公共交通機関が利用しやすいこと 6 病院や福祉施設などが充実していて利用しやすいこと 7 治安の良い環境が整っていること 8 静かな居住環境が整っていること 9 美しい街並みや景観が整っていること 10 職場や学校などが近いこと 11 保育園や幼稚園などが近いこと 12 祭りやイベントなどが開催され、にぎやかであること 13 その他	
具体的に教えてください 	

問5 次の①～④の項目ごとに、それぞれあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。			
① 性 別	1 男性	2 女性	
② 年 齢	1 20歳未満	2 20～29歳	
	3 30～39歳	4 40～49歳	
	5 50～64歳	6 65歳以上	
③ 家 族 構 成	1 一人暮らし	2 夫婦のみ	
	3 親と子ども	4 二世帯（親世帯＋子世帯）	
	5 三世帯（親世帯＋子世帯＋孫世帯）		
	6 その他（具体的に _____）		
④ 現在のお住まい	1 東京都	2 埼玉県	
	3 神奈川県	4 千葉県	
	5 その他（具体的に _____）		

ご協力ありがとうございました。

佐久市健康長寿まちづくり計画

策定 平成29年 3月22日

〒385-8501 長野県佐久市中込3056番地
電話 0267-62-3265 佐久市経済部商工振興課



佐久市